# XMAT<sub>E</sub>X-ja 用 jclasses 互換クラス

森見幸正 (h20y6m)

作成日:2021/09/05

# Contents

1	オプションスイッチ	4
2	オプションの宣言	5
	2.1 用紙オプション	5
	2.2 サイズオプション	6
	2.3 横置きオプション	6
	2.4 トンボオプション	6
	2.5 面付けオプション	7
	2.6 組方向オプション	7
	2.7 両面、片面オプション	7
	2.8 二段組オプション	7
	2.9 表題ページオプション	8
	2.10 右左起こしオプション	8
	2.11 数式のオプション	8
	2.12 参考文献のオプション	8
	2.13 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字	9
	2.14 ドラフトオプション	9
	2.15 オプションの実行	9
3	フォント	11
3	フォント	11
4	レイアウト	15
	4.1 用紙サイズの決定	15
	4.2 段落の形	15
	4.3 ページレイアウト	16
	4.3.1 縦方向のスペース	16

		4.3.2 本文領域	17
		4.3.3 マージン	22
	4.4	脚注	26
	4.5	フロート	26
		4.5.1 フロートパラメータ	26
		4.5.2 フロートオブジェクトの上限値	28
5	改ペ	$R$ ージ(日本語 $\mathrm{T_E}\mathrm{X}$ 開発コミュニティ版のみ)	29
6	~-	ジスタイル	31
	6.1	マークについて	31
	6.2	plain ページスタイル	32
	6.3	jpl@in ページスタイル	32
	6.4	headnombre ページスタイル	32
	6.5	footnombre ページスタイル	33
	6.6	headings スタイル	33
	6.7	bothstyle スタイル	34
	6.8	myheading スタイル	36
7	文書	コマンド	36
	7.1	表題	36
	7.2	概要	41
	7.3	章見出し	42
		7.3.1 マークコマンド	42
		7.3.2 カウンタの定義	42
		7.3.3 前付け、本文、後付け	44
		7.3.4 ボックスの組み立て	45
		7.3.5 part レベル	46
		7.3.6 chapter レベル	48
		7.3.7 下位レベルの見出し	50
		7.3.8 付録	51
	7.4	リスト環境	51
		7.4.1 enumerate 環境	54
		7.4.2 itemize 環境	55
		7.4.3 description 環境	56
		7.4.4 verse 環境	56
		7.4.5 quotation 環境	57
		7.4.6 quote 環境	57

	7.5	フロー	F	57
		7.5.1	figure 環境	57
		7.5.2	table 環境	58
	7.6	キャプ	ション	59
	7.7	コマン	ドパラメータの設定	60
		7.7.1	array と tabular 環境	60
		7.7.2	tabbing 環境	60
		7.7.3	minipage 環境	60
		7.7.4	framebox 環境	60
		7.7.5	equation と eqnarray 環境	61
8	フォ	ントコマ	<b>マンド</b>	61
n	扣下:	<b>杂</b> 昭		en
9	相互			62
9	相互 <sup>5</sup> 9.1	目次 .		62
9	•••	目次 . 9.1.1	本文目次	62 64
9	9.1	目次 . 9.1.1 9.1.2	本文目次 図目次と表目次	62 64 66
9	9.1	目次 . 9.1.1 9.1.2 参考文	本文目次 図目次と表目次 献	62 64 66 67
9	9.1 9.2 9.3	目次 . 9.1.1 9.1.2 参考文 索引 .	本文目次 図目次と表目次 献	62 64 66 67 68
9	9.1	目次 . 9.1.1 9.1.2 参考文 索引 .	本文目次 図目次と表目次 献	62 64 66 67
	9.1 9.2 9.3 9.4	目次 . 9.1.1 9.1.2 参考文 索引 .	本文目次 図目次と表目次 献	62 64 66 67 68

このファイルは、X元 $AT_E$ X-ja 用 j classes 互換クラスファイルです。 DOCSTRIP プログラムによって、横組用のクラスファイルと縦組用のクラスファイルを作成することができます。

次に DOCSTRIP プログラムのためのオプションを示します。

オプション	意味
article	article クラスを生成
report	report クラスを生成
book	book クラスを生成
10pt	10pt サイズの設定を生成
11pt	11pt サイズの設定を生成
12pt	12pt サイズの設定を生成
bk	book クラス用のサイズの設定を生成
tate	縦組用の設定を生成
yoko	横組用の設定を生成

# 1 オプションスイッチ

ここでは、後ほど使用するいくつかのコマンドやスイッチを定義しています。

\c@@paper 用紙サイズを示すために使います。A4, A5, B4, B5 用紙はそれぞれ、1, 2, 3, 4 として表されます。

1 (\*article | report | book)

2 \newcounter{@paper}

\if@landscape 用紙を横向きにするかどうかのスイッチです。デフォルトは、縦向きです。

3 \newif\if@landscape \@landscapefalse

**\@ptsize** 組版をするポイント数の一の位を保存するために使います。0, 1, 2 のいずれかです。

4 \newcommand{\@ptsize}{}

\if@restonecol 二段組時に用いるテンポラリスイッチです。

5 \newif\if@restonecol

\if@titlepage タイトルページやアブストラクト (概要) を独立したページにするかどうかのスイッチです。report と book スタイルのデフォルトでは、独立したページになります。

6 \newif\if@titlepage

7 (article) \@titlepagefalse

8 (report | book)\@titlepagetrue

\ifCopenright chapter レベルを右ページからはじめるかどうかのスイッチです。横組では奇数ペー

ジ、縦組では偶数ページから始まることになります。report クラスのデフォルトは、

"no"です。book クラスのデフォルトは、"yes"です。

9 (!article) \newif\if@openright

\ifCopenleft chapter レベルを左ページからはじめるかどうかのスイッチです。日本語 TeX 開発コミュニティ版で新たに追加されました。横組では偶数ページ、縦組では奇数ペー

ゴミュニティ版で新たに追加されました。 懐組では偶数ペーシ、縦組では奇数ページから始まることになります。 report クラスと book クラスの両方で、デフォルト

は "no" です。

10 (!article)\newif\if@openleft

\if@mainmatter スイッチ \@mainmatter が真の場合、本文を処理しています。このスイッチが偽の

場合は、\chapter コマンドは見出し番号を出力しません。

11 \langle book \newif \if@mainmatter \@mainmattertrue

\hour

- \minute 12 \newcount\hour
  - 13 \newcount\minute
  - 14 \hour\time \divide\hour by 60\relax
  - 15 \@tempcnta\hour \multiply\@tempcnta 60\relax
  - 16 \minute\time \advance\minute-\@tempcnta

\if Ostysize pLATFX 2 2.09 互換モードで、スタイルオプションに a4j,a5p などが指定されたと きの動作をエミュレートするためのフラグです。

17 \newif\if@stysize \@stysizefalse

# 2 オプションの宣言

ここでは、クラスオプションの宣言を行なっています。

# 2.1 用紙オプション

用紙サイズを指定するオプションです。

- 18 \DeclareOption{a4paper}{\setcounter{@paper}{1}%
- \setlength\paperheight {297mm}%
- \setlength\paperwidth {210mm}}
- 21 \DeclareOption{a5paper}{\setcounter{@paper}{2}%
- 22 \setlength\paperheight {210mm}
- 23 \setlength\paperwidth {148mm}}
- 24 \DeclareOption{b4paper}{\setcounter{@paper}{3}%
- 25 \setlength\paperheight {364mm}
- 26 \setlength\paperwidth {257mm}}
- 27 \DeclareOption{b5paper}{\setcounter{@paper}{4}%
- \setlength\paperheight {257mm}
- \setlength\paperwidth {182mm}}

ドキュメントクラスに、以下のオプションを指定すると、通常よりもテキストを組 み立てる領域の広いスタイルとすることができます。

30 %

- 31  $\DeclareOption{a4j}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue}$
- 32 \setlength\paperheight {297mm}%
- 33 \setlength\paperwidth {210mm}}
- 34 \DeclareOption{a5j}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue
- 35 \setlength\paperheight {210mm}
- 36 \setlength\paperwidth {148mm}}
- 37 \DeclareOption{b4j}{\setcounter{@paper}{3}\@stysizetrue
- 38 \setlength\paperheight {364mm}
- 39 \setlength\paperwidth {257mm}}
- 40 \DeclareOption{b5j}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue
- 41 \setlength\paperheight {257mm}
- 42 \setlength\paperwidth {182mm}}

```
43 %

44 \DeclareOption{a4p}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue}

45 \setlength\paperheight {297mm}%

46 \setlength\paperwidth {210mm}}

47 \DeclareOption{a5p}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue}

48 \setlength\paperheight {210mm}

49 \setlength\paperwidth {148mm}}

50 \DeclareOption{b4p}{\setcounter{@paper}{3}\@stysizetrue}

51 \setlength\paperheight {364mm}

52 \setlength\paperwidth {257mm}}

53 \DeclareOption{b5p}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue}

54 \setlength\paperheight {257mm}

55 \setlength\paperwidth {182mm}}
```

# 2.2 サイズオプション

基準となるフォントの大きさを指定するオプションです。

```
56 \if@compatibility
57 \renewcommand{\@ptsize}{0}
58 \else
59 \DeclareOption{10pt}{\renewcommand{\@ptsize}{0}}
60 \fi
```

 $61 \ensuremath{\texttt{Optsize}} \{1\} \}$ 

62 \DeclareOption{12pt}{\renewcommand{\@ptsize}{2}}

# 2.3 横置きオプション

このオプションが指定されると、用紙の縦と横の長さを入れ換えます。

```
63 \verb|\DeclareOption{landscape}{\Clandscapetrue}|
```

- $64 \quad \texttt{\setlength} @ tempdima{\paperheight} \%$
- 55 \setlength\paperheight{\paperwidth}%
- 66 \setlength\paperwidth{\@tempdima}}

# 2.4 トンボオプション

tombow オプションが指定されると、用紙サイズに合わせてトンボを出力します。このとき、トンボの脇に DVI を作成した日付が出力されます。作成日付の出力を抑制するには、tombow ではなく、tombo と指定をします。

ジョブ情報の書式は元々 filename : 2017/3/5(13:3) のような書式でしたが、jsclasses にあわせて桁数固定の filename (2017-03-05 13:03) に直しました。

- 67 \newif\iftombow
- $68 \neq 68$
- 69 \newdimen\@tombowwidth
- $70 \newtoks\newtoken$
- 71 \tombowfalse

```
72 \tombowdatetrue
73 \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
74 \@bannertoken{}
75 \DeclareOption{tombow}{%
    \tombowtrue \tombowdatetrue
76
    \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
77
    \@bannertoken{%
78
       \jobname\space(\number\year-\two@digits\month-\two@digits\day
79
       \space\two@digits\hour:\two@digits\minute)}}
80
81 \DeclareOption{tombo}{%
    \tombowtrue \tombowdatefalse
    \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}}
```

# 2.5 面付けオプション

このオプションが指定されると、トンボオプションを指定したときと同じ位置に文章を出力します。作成した DVI をフィルムに面付け出力する場合などに指定をします。

```
84 \DeclareOption{mentuke}{%
85 \tombowtrue \tombowdatefalse
86 \setlength{\@tombowwidth}{\z@}}
```

# 2.6 組方向オプション

このオプションが指定されると、縦組で組版をします。
[XTIATEX-ja] 縦組みは xelatexja パッケージのオプションとして指定します。
87 \DeclareOption{tate}{%
88 \PassOptionsToPackage{tate}{xelatexja}%
89 \AtBeginDocument{\message{《縦組モード》}}%
90 }

#### 2.7 両面、片面オプション

twoside オプションが指定されると、両面印字出力に適した整形を行ないます。 91 \DeclareOption{oneside} {\@twosidefalse}

 $92 \label{lem:prop:prop:prop:general} 92 \label{lem:general:$ 

# 2.8 二段組オプション

```
二段組にするかどうかのオプションです。
```

- 93 \DeclareOption{onecolumn}{\@twocolumnfalse}

# 2.9 表題ページオプション

**@titlepage** が真の場合、表題を独立したページに出力します。

- 95 \DeclareOption{titlepage}{\@titlepagetrue}
- 96 \DeclareOption{notitlepage}{\@titlepagefalse}

# 2.10 右左起こしオプション

chapter を右ページあるいは左ページからはじめるかどうかを指定するオプション です。openleft オプションは日本語  $T_EX$  開発コミュニティによって追加されました。

```
97 (!article) \if@compatibility
```

- $98 \langle book \rangle \backslash @openrighttrue$
- 99 (!article)\else
- $100 \ \langle !article \rangle \setminus DeclareOption\{openright\} \{ \setminus Qopenrighttrue \setminus Qopenleftfalse \}$
- $101 \ \langle !article \rangle \ \backslash DeclareOption \{ openleft \} \{ \ \backslash Copenleft true \ \backslash Copenright false \}$
- 103 (!article)\fi

# 2.11 数式のオプション

leqno を指定すると、数式番号を数式の左側に出力します。fleqn を指定するとディスプレイ数式を左揃えで出力します。

- 104 \DeclareOption{leqno}{\input{leqno.clo}}
- 105 \DeclareOption{fleqn}{\input{fleqn.clo}}

# 2.12 参考文献のオプション

参考文献一覧を"オープンスタイル"の書式で出力します。これは各ブロックが改行で区切られ、\bibindent のインデントが付く書式です。

106 \DeclareOption{openbib}{%

参考文献環境内の最初のいくつかのフックを満たします。

- 107 \AtEndOfPackage{%
- 108 \renewcommand\@openbib@code{%
- 109 \advance\leftmargin\bibindent
- 110 \itemindent -\bibindent
- 111 \listparindent \itemindent
- 112 \parsep \z@
- 113 }%

そして、\newblockを再定義します。

114 \renewcommand\newblock{\par}}}

# 2.13 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字

 $pIAT_EX 2_{\varepsilon}$ は、このあと、数式モードで直接、日本語を記述できるように数式ファミリを宣言します。しかし、 $T_EX$  で扱える数式ファミリの数が 16 個なので、その他のパッケージと組み合わせた場合、数式ファミリを宣言する領域を超えてしまう場合があるかもしれません。そのときには、残念ですが、そのパッケージか、数式内に直接、日本語を記述するのか、どちらかを断念しなければなりません。このクラスオプションは、数式内に日本語を記述するのをあきらめる場合に用います。

disablejfam オプションを指定しても \textmc や \textgt などを用いて、数式内に日本語を記述することは可能です。

日本語  $T_{EX}$  開発コミュニティによる補足:コミュニティ版 pI=TEX の 2016/11/29 以降の版では、e-p=TEX の拡張機能(通称「旧 FAM=256 パッチ」)が利用可能な場合に、I=TEX の機能で宣言できる数式ファミリ(数式アルファベット)の上限を 256 個に増やしています。したがって、新しい環境では disable jfam を指定しなくても上限を超えることが起きにくくなっています。

[X元五元X-ja] 常に disable jfam 相当です。

# 2.14 ドラフトオプション

draft オプションを指定すると、オーバフルボックスの起きた箇所に、5pt の罫線が引かれます。

```
115 \DeclareOption{draft}{\setlength\overfullrule{5pt}}
```

- 116 \DeclareOption{final}{\setlength\overfullrule{Opt}}
- 117 (/article | report | book)

# 2.15 オプションの実行

オプションの実行を行ないます。

```
118 (*article | report | book)
```

- 119 (\*article)
- 120 (tate) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,tate}
- 121 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper, 10pt, oneside, onecolumn, final}
- 122 (/article)
- 123 (\*report)
- 124 (tate)\ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,openany,tate}
- 125 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,openany}
- 126 (/report)
- 127  $\langle *book \rangle$
- $128 \ \langle \texttt{tate} \rangle \ \backslash \texttt{ExecuteOptions\{a4paper,10pt,twoside,onecolumn,final,openright,tate\}}$
- 129 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper, 10pt, twoside, one column, final, openright}
- 130 (/book)
- 131  $\ProcessOptions\relax$

\Cjascale このクラスファイルが意図する和文スケール値(1 zw÷要求サイズ)を表す実数値マクロ \Cjascale を定義します。このクラスでは、jclasses の和文スケール値と同じ 0.962216 です。
132 \def\Cjascale{0.962216}

```
[XqIATeX-ja] パッケージを読み込みます。
133 \RequirePackage[jascale=\Cjascale]{xelatexja}
134 \ExplSyntaxOn
135 \cs_new:Npn \xltjc@yoko@hbox #1
136
     {
137
       \xeja_if_tate_text:TF
138
           \mode_if_vertical:TF
139
             { \use:n }
140
             { \xeja_box_tjabaselineshift:n }
141
           { \xeja_yoko_in_tate_hbox:n {#1} }
142
143
144
         {
           \hbox:n {#1}
145
         }
146
147
    }
148 \cs_new:Npn \xltjc@tate@vbox@to@ht #1#2
149
       \xeja_if_tate_text:TF
150
151
         {
           \vbox_to_ht:nn {#1} {#2}
152
153
154
155
           \mode_if_vertical:TF
156
             { \use:n }
157
             { \xeja_box_yjabaselineshift:n }
158
           { \xeja_tate_in_yoko_vbox_to_ht:nn {#1} {#2} }
159
    }
160
161 \ExplSyntaxOff
   [XrIATrX-ja] トンボの設定をします。
162 \setminus iftombow
163 \xejaTombowSetup{
164
       tombow=true,
       banner={\the\@bannertoken},
165
       thickness=\@tombowwidth,
166
167 }
   サイズクラスのロードを行ないます。
169 \book & tate \\input{xltjtbk1\@ptsize.clo}
170 (!book & tate)\input{xltjtsize1\@ptsize.clo}
```

```
171 \(\dagger\) book \(&\dagger\) \(\lambda\) \(\lambd
```

172 (!book & yoko)\input{xltjsize1\@ptsize.clo}

縦組用クラスファイルの場合は、ここで plext.sty も読み込みます。

173 \RequirePackage{xltjext}

 $174 \langle / article \mid report \mid book \rangle$ 

#### フォント 3

ここでは、IATeX のフォントサイズコマンドの定義をしています。フォントサイズ コマンドの定義は、次のコマンドを用います。

 $\colone{thm:line} \colone{thm:line} \colone{th$ 

〈font-size〉 これから使用する、フォントの実際の大きさです。

〈baselineskip〉 選択されるフォントサイズ用の通常の \baselineskip の値です (実際は、\baselinestretch \*  $\langle baselineskip \rangle$  の値です)。

数値コマンドは、次のように IATFX カーネルで定義されています。

\@vpt	5	\@vipt	6	\@viipt	7
\@viiipt	8	\@ixpt	9	\@xpt	10
\@xipt	10.95	\@xiipt	12	\@xivpt	14.4

\normalsize 基本サイズとするユーザレベルのコマンドは \normalsize です。 LATEX の内部で \@normalsize は\@normalsizeを使用します。

> \normalsizeマクロは、\abovedisplayskipと \abovedisplayshortskip、お よび \belowdisplayshortskip の値も設定をします。 \belowdisplayskip は、つ ねに \abovedisplayskip と同値です。

> また、リスト環境のトップレベルのパラメータは、つねに \@listI で与えられま す。

```
175 (*10pt | 11pt | 12pt)
```

<sup>176 \</sup>renewcommand{\normalsize}{%

<sup>177</sup>  $\langle 10pt \& yoko \rangle$ \@setfontsize\normalsize\@xpt{15}% 178 **(11pt** & yoko) \@setfontsize\normalsize\@xipt{15.5}% \@setfontsize\normalsize\@xiipt{16.5}% 179 (**12pt** & yoko) 180 **(10pt** & tate) \@setfontsize\normalsize\@xpt{17}% 181 **(11pt** & tate) \@setfontsize\normalsize\@xipt{17}% 182 **(12pt** & tate) \@setfontsize\normalsize\@xiipt{18}% 183 **(\*10pt)** 

<sup>\</sup>abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@

```
\abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
                    \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
187 (/10pt)
188 (*11pt)
                      \abovedisplayskip 11\p@ \@plus3\p@ \@minus6\p@
189
                       \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
190
                       \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
191
192 \langle /11pt \rangle
193 (*12pt)
                        194
195
                         \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
                         \begin{tabular}{ll} \below displays hortskip 6.5\p@ \end{tabular} $0.5\p@ \end{tabular
196
                             \belowdisplayskip \abovedisplayskip
198
                            \let\@listi\@listI}
                ここで、ノーマルフォントを選択し、初期化をします。
```

200 \normalsize

\normalsize を robust にします。すぐ上で \DeclareRobustCommand とせずに、カーネルの定義を \renewcommand した後に \MakeRobust を使っている理由は、ログに LaTeX Info: Redefining \normalsize on input line ... というメッセージを出したくないからです。ただし、latexrelease パッケージで 2015/01/01 より昔の日付に巻き戻っている場合は \MakeRobust が定義されていません。

- 201 \ifx\MakeRobust\@undefined \else
- 202 \MakeRobust\normalsize
- 203 \fi

\Cht 基準となる長さの設定をします。これらのパラメータは plfonts.dtx で定義され \Cdp ています。基準とする文字を「全角空白」(EUC コード 0xA1A1 ) から「漢」(JIS \Cwd コード 0x3441 ) へ変更しました。

\Cvs [X\_HAT\_EX-ja] X\_HEX ではボックスの高さと深さはグリフ毎に異なるため、X\_HAT\_EX-\Chs ja では決め打ちで設定します。

- 204 \newdimen\Cht
- 205 \newdimen\Cdp
- 206 \newdimen\Cwd
- $207 \newdimen\Cvs$
- $208 \mbox{ newdimen\Chs}$
- 209 \setlength\Cht{0.88\zw}
- $210 \stlength\Cdp{0.12\zw}$
- $211 \setlength\Cwd{1\zw}$
- 212  $\ensuremath \Cvs{\baselineskip}$
- 213 \setlength\Chs{1\zw}

\small \small コマンドの定義は、\normalsize に似ています。こちらはカーネルで未定 義なので、直接 \DeclareRobustCommand で定義します。

```
215 (*10pt)
                                                                \@setfontsize\small\@ixpt{11}%
                                               216
                                                                 217
                                                                 218
                                                                 \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
                                               219
                                                                 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                                               220
                                                                                                         221
                                                                                                          \parsep 2\p0 \plus\p0 \pounds\p0
                                               222
                                                                                                          \itemsep \parsep}%
                                               223
                                               224 (/10pt)
                                               225 (*11pt)
                                                                 \@setfontsize\small\@xpt\@xiipt
                                               226
                                                                 \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
                                               227
                                               228
                                                                 \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
                                                                 \label{lowdisplayshortskip 6plus3p@ \eminus3p@ \eminu
                                               229
                                                                 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                                               230
                                                                                                          \label{local_problem} $$ \to 6\p0 \end{center} $$ \operatorname{local_p0} \end{center} $$ \operatorname{local_p0} \end{center} $$
                                               231
                                                                                                          \parsep 3\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                                               232
                                               233
                                                                                                          \itemsep \parsep}%
                                               234 (/11pt)
                                               235 (*12pt)
                                                                \@setfontsize\small\@xipt{13.6}%
                                               236
                                                                 \abovedisplayskip 11\p@ \@plus3\p@ \@minus6\p@
                                               237
                                               238
                                                                 \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
                                                                 \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
                                               239
                                                                 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                                               240
                                                                                                          241
                                                                                                          242
                                                                                                          \itemsep \parsep}%
                                               243
                                               _{244}~\langle/12pt\rangle
                                               245 \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
\footnotesize \footnotesize コマンドの定義は、\normalsize に似ています。こちらも直接
                                                  \DeclareRobustCommand で定義します。
                                               246 \DeclareRobustCommand{\footnotesize}{%
                                               247 (*10pt)
                                               248
                                                                \@setfontsize\footnotesize\@viiipt{9.5}%
                                               249
                                                                 \abovedisplayskip 6\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
                                               250
                                                                 \verb|\abovedisplayshortskip| \verb|\z0| | \verb|\operator| oplus | \verb|\p0| oplus | \verb|\p0| oplus | oplus 
                                                                 \belowdisplayshortskip 3\p@ \@plus\p@ \@minus2\p@
                                               251
                                                                 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                                               252
                                                                                                          \topsep 3\p0 \p0 \p0 \p0 \p0 \p0
                                               253
                                               254
                                                                                                          \parsep 2\p0 \plus\p0 \plus\p0
                                               255
                                                                                                          \itemsep \parsep}%
                                               256 (/10pt)
                                               257 (*11pt)
                                                                 \@setfontsize\footnotesize\@ixpt{11}%
                                               258
                                                                 \abovedisplayskip 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
```

214 \DeclareRobustCommand{\small}{%

```
\abovedisplayshortskip \z@ \@plus\p@
          260
               \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
          261
               \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
          262
                          \topsep 4\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
          263
                          \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
          264
          265
                          \itemsep \parsep}%
          266 \langle /11pt \rangle
          267 (*12pt)
               \@setfontsize\footnotesize\@xpt\@xiipt
          268
               \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
          269
          270
               \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
               \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
          271
               \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
          272
                          273
          274
                          \parsep 3\p0 \plus2\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                          \itemsep \parsep}%
          275
          276 (/12pt)
               \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
           これらは先ほどのマクロよりも簡単です。これらはフォントサイズを変更するだけ
\scriptsize
     \tiny で、リスト環境とディスプレイ数式のパラメータは変更しません。
    \large 278 (*10pt)
          279 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viipt\@viiipt}
          280 \DeclareRobustCommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vpt\@vipt}
    \label{large} $$ \LARGE $_{281} \DeclareRobustCommand{\large}_{\Qsetfontsize\large\Qxiipt\{17\}} $$
     \Huge 284 \DeclareRobustCommand{\huge}{\@setfontsize\huge\@xxpt{28}}
          285 \DeclareRobustCommand{\Huge}{\@setfontsize\Huge\@xxvpt{33}}
          286 (/10pt)
          287 (*11pt)
          288 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
          289 \DeclareRobustCommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vipt\@vipt}
          290 \DeclareRobustCommand{\large}{\@setfontsize\large\@xiipt{17}}
          291 \DeclareRobustCommand{\Large}{\Osetfontsize\Large\Oxivpt{21}}
          292 \DeclareRobustCommand{\LARGE}{\@setfontsize\LARGE\@xviipt{25}}
          293 \DeclareRobustCommand{\huge}{\Osetfontsize\huge\Oxxpt{28}}
          294 \DeclareRobustCommand{\Huge}{\@setfontsize\Huge\@xxvpt{33}}
          295 (/11pt)
          296 \langle *12pt \rangle
          297 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
          300 \DeclareRobustCommand{\Large}{\@setfontsize\Large\@xviipt{25}}
          301 \DeclareRobustCommand{\LARGE}{\@setfontsize\LARGE\@xxpt{28}}
          302 \DeclareRobustCommand{\huge}{\Csetfontsize\huge\Cxxvpt{33}}
          303 \let\Huge=\huge
          304 (/12pt)
          305 (/10pt | 11pt | 12pt)
```

# 4 レイアウト

# 4.1 用紙サイズの決定

```
\columnsep \columnsep は、二段組のときの、左右(あるいは上下)の段間の幅です。このス
\columnseprule ペースの中央に\columnsepruleの幅の罫線が引かれます。
              306 (*article | report | book)
              307 \if@stysize
                       \setlength\columnsep{3\Cwd}
              308 (tate)
                       \stin Setlength \columnsep{2\Cwd}
              309 (yoko)
              310 \ensuremath{\setminus} else
              311 \setlength\columnsep{10\p0}
              312 \fi
              313 \setlength\columnseprule{0\p0}
    \pagewidth [XHATEX-ja] 出力の PDF の用紙サイズをここで設定しておきます。tombow が真の
  \pageheight ときは2インチ足しておきます。
  \stockwidth 314 \iftombow
 \stockheight ^{315}
                   \newlength{\stockwidth}
              316
                   \newlength{\stockheight}
                   \setlength{\stockwidth}{\paperwidth}
                   \setlength{\stockheight}{\paperheight}
                   \advance \stockwidth 2in
              319
                   \advance \stockheight 2in
              320
                   \setlength{\pdfpagewidth}{\stockwidth}
              \tt 322 \quad \verb|\etlength{\pdfpageheight}{\stockheight}|
              323 \else
              324 \setlength{\pdfpagewidth}{\paperwidth}
              325 \setlength{\pdfpageheight}{\paperheight}
```

# 4.2 段落の形

326 \fi

\lineskip これらの値は、行が近付き過ぎたときの T<sub>E</sub>X の動作を制御します。 \normallineskip 327 \setlength\lineskip{1\p0} 328 \setlength\normallineskip{1\p0}

\baselinestretch これは、\baselineskip の倍率を示すために使います。デフォルトでは、何もしません。このコマンドが "empty" でない場合、\baselineskip の指定の plus やminus 部分は無視されることに注意してください。

 $329 \mbox{ } \mbox{\command{\baselinestretch}{}}$ 

\parskip \parskip は段落間に挿入される、縦方向の追加スペースです。\parindent は段落 \parindent の先頭の字下げ幅です。

 $330 \ensuremath{\texttt{0p@ \ensuremath{\texttt{plus p@}}}}$ 

331 \setlength\parindent{1\Cwd}

 $\scriptstyle 332\ \langle *10pt \mid 11pt \mid 12pt \rangle$ 

333 \setlength\smallskipamount{3\p@ \@plus 1\p@ \@minus 1\p@}

334 \setlength\medskipamount{6\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}

335 \setlength\bigskipamount{12\p@ \@plus 4\p@ \@minus 4\p@}

336 (/10pt | 11pt | 12pt)

\@lowpenalty \nopagebreakと\nolinebreak コマンドは、これらのコマンドが置かれた場所に、 \@medpenalty ペナルティを起いて、分割を制御します。置かれるペナルティは、コマンドの引数 \@highpenalty によって、\@lowpenalty, \@medpenalty, \@highpenalty のいずれかが使われます。

337 \@lowpenalty 51 338 \@medpenalty 151 339 \@highpenalty 301 340 \/article|report|book\

#### 4.3 ページレイアウト

#### 4.3.1 縦方向のスペース

\headheight\headheight は、ヘッダが入るボックスの高さです。 \headsep は、ヘッダの下端\headsepと本文領域との間の距離です。 \topskip は、本文領域の上端と1行目のテキスト\topskipのベースラインとの距離です。

 $_{341} \; \langle *10pt \mid 11pt \mid 12pt \rangle$ 342 \setlength\headheight{12\p0} 343 **(\*tate)** 344 \if@stysize \ifnum\c@@paper=2 % A5 345 \setlength\headsep{6mm} 346 \else % A4, B4, B5 and other 347 \setlength\headsep{8mm} 348 349 350 \else \setlength\headsep{8mm} 351 352 \fi 353 (/tate) 354 (\*yoko)  $355 \langle !bk \rangle \setlength \headsep{25p0}$ 356  $\langle 10pt \& bk \rangle \setminus setlength \setminus headsep\{.25in\}$ 357  $\langle 11pt \& bk \rangle \setminus setlength \setminus eadsep \{.275in\}$ 358 (12pt & bk)\setlength\headsep{.275in}

359 (/yoko)

360 \setlength\topskip{1\Cht}

\footskip \footskip は、本文領域の下端とフッタの下端との距離です。フッタのボックスの 高さを示す、\footheight は削除されました。

```
361 \langle tate \rangle setlength \setminus footskip \{14mm\} \\ 362 \langle *yoko \rangle \\ 363 \langle !bk \rangle setlength \setminus footskip \{30 \setminus p@\} \\ 364 \langle 10pt \& bk \rangle setlength \setminus footskip \{.35in\} \\ 365 \langle 11pt \& bk \rangle setlength \setminus footskip \{.38in\} \\ 366 \langle 12pt \& bk \rangle setlength \setminus footskip \{30 \setminus p@\} \\ 367 \langle /yoko \rangle
```

\maxdepth  $T_{EX}$  のプリミティブレジスタ \maxdepth は、\topskip と同じような働きをします。 \@maxdepth レジスタは、つねに \maxdepth のコピーでなくてはいけません。これ は \begin{document} の内部で設定されます。 $T_{EX}$  と  $I_{E}$ TEX 2.09 では、\maxdepth は 4pt に固定です。 $I_{E}$ TEX 2 $\varepsilon$ では、\maxdepth+\topskip を基本サイズの 1.5 倍に したいので、\maxdepth を \topskip の半分の値で設定します。

```
368 \if@compatibility
369 \setlength\maxdepth{4\p@}
370 \else
371 \setlength\maxdepth{.5\topskip}
372 \fi
```

#### 4.3.2 本文領域

\textheight と\textwidth は、本文領域の通常の高さと幅を示します。縦組でも横組でも、"高さ"は行数を、"幅"は字詰めを意味します。後ほど、これらの長さに\topskipの値が加えられます。

#### \textwidth 基本組の字詰めです。

互換モードの場合:

 $373 \setminus if@compatibility$ 

互換モード:a4j やb5j のクラスオプションが指定された場合の設定:

```
\if@stysize
374
       \ifnum\c@@paper=2 % A5
375
         \if@landscape
376
377 (10pt & yoko)
                       378 (11pt & yoko)
                       379 (12pt & yoko)
                       \setlength\textwidth{40\Cwd}
380 (10pt & tate)
                       \stingth\textwidth{27\Cwd}
381 (11pt & tate)
                      \setlength\textwidth{25\Cwd}
382 (12pt & tate)
                       \setlength\textwidth{23\Cwd}
383
         \else
384~\langle 10 \mathrm{pt}~\&~\mathrm{yoko} \rangle
                       \stin Setlength \textwidth \{28\Cwd\}
```

```
385 (11pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{25\Cwd}
386 (12pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{24\Cwd}
387 (10pt & tate)
                                                                                                    \stitle for the constant of 
388 (11pt & tate)
                                                                                                   \stingth\textwidth{42\Cwd}
                                                                                                   \setlength\textwidth{38\Cwd}
389 (12pt & tate)
390
                                          \fi
                                \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
391
                                          \if@landscape
392
393 (10pt & yoko)
                                                                                                     \stingth\textwidth{75\Cwd}
394 (11pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{69\Cwd}
395 (12pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{63\Cwd}
396 (10pt & tate)
                                                                                                    \setlength\textwidth{53\Cwd}
397 (11pt & tate)
                                                                                                   \stingth\textwidth{49\Cwd}
398 (12pt & tate)
                                                                                                   \stingth\textwidth{44\Cwd}
399
                                          \else
400 (10pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{60\Cwd}
401 (11pt & yoko)
                                                                                                     \stingth\textwidth{55\Cwd}
                                                                                                     \stingth\textwidth{50\Cwd}
402 (12pt & yoko)
403 (10pt & tate)
                                                                                                   \setlength\textwidth{85\Cwd}
404 (11pt & tate)
                                                                                                   \sting 16 \c 16 
405 (12pt & tate)
                                                                                                   \setlength\textwidth{69\Cwd}
406
                                 \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
407
                                          \if@landscape
409 (10pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{60\Cwd}
410 (11pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{55\Cwd}
411 (12pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{50\Cwd}
412 (10pt & tate)
                                                                                                   \stingth\textwidth{34\Cwd}
413 (11pt & tate)
                                                                                                    414 (12pt & tate)
                                                                                                   \stingth\textwidth{28\Cwd}
                                         \else
416 (10pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{37\Cwd}
417 (11pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{34\Cwd}
418 (12pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{31\Cwd}
419 (10pt & tate)
                                                                                                    \stitle for the constant of 
420 (11pt & tate)
                                                                                                    \setlength\textwidth{51\Cwd}
421 (12pt & tate)
                                                                                                   \setlength\textwidth{47\Cwd}
422
                                          \fi
                                \else % A4 ant other
423
                                         \if@landscape
424
425 (10pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{73\Cwd}
426 (11pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{68\Cwd}
427 (12pt & yoko)
                                                                                                     \setlength\textwidth{61\Cwd}
428 (10pt & tate)
                                                                                                    \setlength\textwidth{41\Cwd}
429 (11pt & tate)
                                                                                                   \setlength\textwidth{38\Cwd}
430 (12pt & tate)
                                                                                                   \stingth\textwidth{35\Cwd}
431
                                          \else
432 (10pt & yoko)
                                                                                                     \stingth\textwidth{47\Cwd}
433 (11pt & yoko)
                                                                                                     \stingth\textwidth{43\Cwd}
434 (12pt & yoko)
                                                                                                     \stingth\textwidth{40\Cwd}
```

```
435 (10pt & tate)
                                                     \setlength\textwidth{67\Cwd}
436 (11pt & tate)
                                                     \setlength\textwidth{61\Cwd}
437 (12pt & tate)
                                                     \stingth\textwidth{57\Cwd}
438
                      \fi
                 \fi\fi\fi
439
           \else
440
  互換モード:デフォルト設定
                 \if@twocolumn
441
442
                      \setlength\textwidth{52\Cwd}
443
                 \else
444 (10pt&!bk & yoko)
                                                           \setlength\textwidth{327\p0}
445 (11pt&!bk & yoko)
                                                           \setlength\textwidth{342\p0}
446 \langle 12pt\&!bk \& yoko \rangle
                                                           \stitle for the standard of 
                                                           \strut \
447 \langle 10pt \& bk \& yoko \rangle
448 (11pt & bk & yoko)
                                                           \setlength\textwidth{4.8in}
449 (12pt & bk & yoko)
                                                           \setlength\textwidth{4.8in}
450 (10pt & tate)
                                                \setlength\textwidth{67\Cwd}
451 (11pt & tate)
                                                \setlength\textwidth{61\Cwd}
452 (12pt & tate)
                                                \stingth\textwidth{57\Cwd}
453
                 \fi
454
            \fi
  2e モードの場合:
455 \ensuremath{\setminus} else
  2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定:二段組では用
  紙サイズの8割、一段組では用紙サイズの7割を版面の幅として設定します。
            \if@stysize
                 \if@twocolumn
457
                                  \setlength\textwidth{.8\paperwidth}
458 (yoko)
                                 \setlength\textwidth{.8\paperheight}
459 (tate)
460
                 \else
                                  \setlength\textwidth{.7\paperwidth}
461 (yoko)
462 (tate)
                                  \setlength\textwidth{.7\paperheight}
463
                 \fi
464
           \else
  2e モード: デフォルト設定
                            \setlength\@tempdima{\paperheight}
465 (tate)
466 \langle yoko \rangle
                              \setlength\@tempdima{\paperwidth}
                 \addtolength\@tempdima{-2in}
467
                            \addtolength\@tempdima{-1.3in}
468 (tate)
                                            \setlength\@tempdimb{327\p@}
469 (yoko & 10pt)
470 (yoko & 11pt)
                                            \stingth\@tempdimb{342\p0}
471 (yoko & 12pt)
                                            \setlength\@tempdimb{372\p@}
472 (tate & 10pt)
                                           \setlength\@tempdimb{67\Cwd}
473 (tate & 11pt)
                                           \setlength\@tempdimb{61\Cwd}
474 (tate & 12pt)
                                           \setlength\@tempdimb{57\Cwd}
                 \if@t.wocolumn
475
```

```
\ifdim\@tempdima>2\@tempdimb\relax
                                                                                                                 476
                                                                                                                                                                                                                            \setlength\textwidth{2\@tempdimb}
                                                                                                                 477
                                                                                                                                                                                                          \else
                                                                                                                   478
                                                                                                                   479
                                                                                                                                                                                                                             \setlength\textwidth{\@tempdima}
                                                                                                                                                                                                          \fi
                                                                                                                   480
                                                                                                                   481
                                                                                                                                                                                      \else
                                                                                                                                                                                                          \ifdim\@tempdima>\@tempdimb\relax
                                                                                                                   482
                                                                                                                                                                                                                             \setlength\textwidth{\@tempdimb}
                                                                                                                 483
                                                                                                                                                                                                          \else
                                                                                                                   484
                                                                                                                                                                                                                             \setlength\textwidth{\@tempdima}
                                                                                                                   485
                                                                                                                                                                                                          \fi
                                                                                                                   486
                                                                                                                                                                                      \fi
                                                                                                                   487
                                                                                                                                                                 \fi
                                                                                                                   488
                                                                                                                   489 \fi
                                                                                                                   490 \@settopoint\textwidth
                                                                                                                               基本組の行数です。
\textheight
                                                                                                                                               互換モードの場合:
                                                                                                                 491 \if@compatibility
                                                                                                                          互換モード:a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定:
                                                                                                                   492
                                                                                                                                                                   \if@stysize
                                                                                                                   493
                                                                                                                                                                                      \ifnum\c@@paper=2 % A5
                                                                                                                   494
                                                                                                                                                                                                          \if@landscape
                                                                                                                 495 (10pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \sting 17\cvs
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \still
                                                                                                                 496 (11pt & yoko)
                                                                                                                 497 (12pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \still
                                                                                                                 498 (10pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \setlength\textheight{26\Cvs}
                                                                                                                 499 (11pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \setlength\textheight{26\Cvs}
                                                                                                                 500 (12pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \setlength\textheight{25\Cvs}
                                                                                                                 501
                                                                                                                                                                                                          \else
                                                                                                                 502 (10pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \stin 28\c Cvs
                                                                                                                 503 (11pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \stingth\textheight{25\Cvs}
                                                                                                                 504 (12pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \stingth\textheight{24\Cvs}
                                                                                                                 505 (10pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \stin Setlength \textheight {16\Cvs}
                                                                                                                 506 (11pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \stitle for the description of the description of
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   \still
                                                                                                                 507 (12pt & tate)
                                                                                                                                                                                                          \fi
                                                                                                                 508
                                                                                                                                                                                        \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
                                                                                                                 509
                                                                                                                                                                                                          \if@landscape
                                                                                                                 510
                                                                                                                 511 (10pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \stitle for the distribution of the context of th
                                                                                                                 512 (11pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \sting 136\cvs
                                                                                                                 513 (12pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \stingth\textheight{34\Cvs}
                                                                                                                 514 (10pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \stitle for the description of the description of
                                                                                                                 515 (11pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \stitle for the proof of the 
                                                                                                                 516 (12pt & tate)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \stitle for the distribution of the distribu
                                                                                                                                                                                                          \else
                                                                                                                 517
                                                                                                                 518 (10pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \strut = 157\c vs
                                                                                                                 519 (11pt & yoko)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       \stitle for the distribution of the context of th
```

```
520 (12pt & yoko)
                                                                                                                              \setlength\textheight{52\Cvs}
521 (10pt & tate)
                                                                                                                             \setlength\textheight{33\Cvs}
522 (11pt & tate)
                                                                                                                             \setlength\textheight{33\Cvs}
523 (12pt & tate)
                                                                                                                            \setlength\textheight{31\Cvs}
524
                                                    \fi
                                         \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
525
                                                    \if@landscape
526
527 (10pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight{22\Cvs}
528 (11pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight{21\Cvs}
529 (12pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight\{20\Cvs\}
                                                                                                                             \setlength\textheight{34\Cvs}
530 (10pt & tate)
531 (11pt & tate)
                                                                                                                             \setlength\textheight{34\Cvs}
532 (12pt & tate)
                                                                                                                             \stitle for the initial content of the content of
533
                                                    \else
534 (10pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight{35\Cvs}
                                                                                                                              \stingth\textheight{34\Cvs}
535 (11pt & yoko)
536 (12pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight{32\Cvs}
537 (10pt & tate)
                                                                                                                             \stitle for the distribution of the property of the property
538 (11pt & tate)
                                                                                                                            \stingth\textheight{21\Cvs}
539 (12pt & tate)
                                                                                                                            \stin 20\cvs
540
                                                   \fi
                                         \else % A4 and other
541
                                                    \if@landscape
542
543 (10pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight\{27\Cvs\}
544 (11pt & yoko)
                                                                                                                              \stingth\textheight{26\Cvs}
545 (12pt & yoko)
                                                                                                                              \stin Setlength \textheight \{25\Cvs\}
546 (10pt & tate)
                                                                                                                             \stitle for the description of the description of
                                                                                                                             \setlength\textheight{41\Cvs}
547 (11pt & tate)
                                                                                                                             \setlength\textheight{38\Cvs}
548 (12pt & tate)
                                                   \else
549
550 (10pt & yoko)
                                                                                                                              \setlength\textheight{43\Cvs}
551 (11pt & yoko)
                                                                                                                              \sting th \text{$\color{blue}$}
552 (12pt & yoko)
                                                                                                                              \setlength\textheight{39\Cvs}
553 (10pt & tate)
                                                                                                                             \setlength\textheight{26\Cvs}
554 (11pt & tate)
                                                                                                                             \setlength\textheight{26\Cvs}
555 (12pt & tate)
                                                                                                                             \stitle for the proof of the contract of the
556
                                                    \fi
                                        \fi\fi\fi
557
                                                                      \addtolength\textheight{\topskip}
558 (yoko)
559 (bk & yoko)
                                                                                              \addtolength\textheight{\baselineskip}
                                                                    \addtolength\textheight{\Cht}
560 (tate)
561 (tate)
                                                                    \addtolength\textheight{\Cdp}
     互換モード:デフォルト設定
562
                           \else
563 (10pt&!bk & yoko)
                                                                                                                  \stingth\textheight{578\p0}
_{564} \langle 10 pt~\&~bk~\&~yoko \rangle
                                                                                                                   \setlength\textheight{554\p0}
565 (11pt & yoko)
                                                                                            \setlength\textheight{580.4\p0}
566 (12pt & yoko)
                                                                                            \setlength\textheight{586.5\p0}
567 (10pt & tate)
                                                                                        \setlength\textheight{26\Cvs}
```

```
569 (12pt & tate) \setlength\textheight{24\Cvs}
570 \fi
2e モードの場合:
571 \else
2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定: 縦組では用紙サイ
ズの 70%(book) か 78%(article,report)、横組では 70%(book) か 75%(article,report)
 を版面の高さに設定します。
    \if@stysize
573 \langle \mathsf{tate} \& \mathsf{bk} \rangle
                \setlength\textheight{.75\paperwidth}
574 (tate&!bk)
                \setlength\textheight{.78\paperwidth}
575 (yoko & bk)
                \setlength\textheight{.70\paperheight}
576 (yoko&!bk)
                \setlength\textheight{.75\paperheight}
2e モード:デフォルト値
577
    \else
            \setlength\@tempdima{\paperwidth}
578 (tate)
            \setlength\@tempdima{\paperheight}
579 (yoko)
       \addtolength\@tempdima{-2in}
580
581 (yoko)
            \addtolength\@tempdima{-1.5in}
582
       \divide\@tempdima\baselineskip
583
       \@tempcnta\@tempdima
       \setlength\textheight{\@tempcnta\baselineskip}
584
585
   \fi
586 \fi
最後に、\textheightに \topskip の値を加えます。
587 \addtolength\textheight{\topskip}
588 \@settopoint\textheight
```

#### 4.3.3 マージン

\topmargin \topmargin は、"印字可能領域"—用紙の上端から1インチ内側— の上端からヘッダ部分の上端までの距離です。

2.09 互換モードの場合:

```
589 \if@compatibility
590 (*yoko)
591
                                                                                          \if@stysize
                                                                                                                                \setlength\topmargin{-.3in}
593
594 (!bk)
                                                                                                                                                                                                  \sting 100 \sting 10
                                                                                                                                                                                                                                                                                                 \stin {.75in}
595 (10pt & bk)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                 \setlength\topmargin{.73in}
596 (11pt & bk)
597 \langle 12pt \& bk \rangle
                                                                                                                                                                                                                                                                                                 \strut \ \clin \ \cl
598 \fi
599 (/yoko)
```

 $568 \langle 11pt \& tate \rangle \quad \text{setlength} \quad \text{textheight} \quad \{25 \backslash Cvs\}$ 

```
\if@stysize
                                        601
                                                           \ifnum\c@@paper=2 % A5
                                        602
                                        603
                                                                 \setlength\topmargin{.8in}
                                                            \else % A4, B4, B5 and other
                                        604
                                                                 \setlength\topmargin{32mm}
                                        605
                                                            \fi
                                        606
                                                      \ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\engen}}}}}}}}}} \endedshius $$\enduremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath{\mbox{\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\ensuremath}\en
                                        607
                                                           \setlength\topmargin{32mm}
                                        608
                                        609
                                                      \fi
                                                       \addtolength\topmargin{-1in}
                                        610
                                                       \addtolength\topmargin{-\headheight}
                                        611
                                                      \addtolength\topmargin{-\headsep}
                                        613 (/tate)
                                          2e モードの場合:
                                        614 \else
                                                     \setlength\topmargin{\paperheight}
                                        615
                                                     \addtolength\topmargin{-\headheight}
                                        616
                                                     \addtolength\topmargin{-\headsep}
                                                                 \addtolength\topmargin{-\textwidth}
                                        619 (yoko) \addtolength\topmargin{-\textheight}
                                                     \addtolength\topmargin{-\footskip}
                                        620
                                                     \if@stysize
                                        621
                                                           \ifnum\c@@paper=2 % A5
                                        622
                                                                 \addtolength\topmargin{-1.3in}
                                        623
                                        624
                                                                 \addtolength\topmargin{-2.0in}
                                        625
                                        626
                                                           \fi
                                        627
                                                     \else
                                                                          \addtolength\topmargin{-2.0in}
                                        628 (yoko)
                                        629 (tate)
                                                                        \addtolength\topmargin{-2.8in}
                                                     \fi
                                        630
                                                     \addtolength\topmargin{-.5\topmargin}
                                        631
                                        633 \@settopoint\topmargin
                                       \marginparsep は、本文と傍注の間にあけるスペースの幅です。横組では本文の左
  \marginparsep
                                         (右)端と傍注、縦組では本文の下(上)端と傍注の間になります。\marginparpush
\marginparpush
                                          は、傍注と傍注との間のスペースの幅です。
                                        634 \if@twocolumn
                                                   \setlength\marginparsep{10\p0}
                                        636 \ensuremath{\setminus} \texttt{else}
                                        637 (tate)
                                                                   \setlength\marginparsep{15\p0}
                                        638 (yoko)
                                                                   \setlength\marginparsep{10\p0}
                                        639 \fi
                                        640 \langle tate \rangle \setminus setlength \setminus margin parpush \{7 \setminus p0\}
                                        641 (*yoko)
```

600 (\*tate)

```
642 (10pt)\setlength\marginparpush{5\p0}
                 643 (11pt)\setlength\marginparpush{5\p0}
                 644 \langle 12pt \rangle \setminus \{12pt\} \setminus \{7 \mid p0\}
                 645 (/yoko)
                   まず、互換モードでの長さを示します。
 \oddsidemargin
                    互換モード、縦組の場合:
\evensidemargin
\marginparwidth 646 \if@compatibility
                 647 \langle tate \rangle
                             \setlength\oddsidemargin{0\p@}
                 648 (tate)
                             \stilength\evensidemargin{0p0}
                  互換モード、横組、book クラスの場合:
                 649 (*yoko)
                 650 \langle *bk \rangle
                               \setlength\oddsidemargin
                                                            {.5in}
                 651 (10pt)
                 _{652}~\langle 11pt\rangle
                               \setlength\oddsidemargin
                                                            \{.25in\}
                               \setlength\oddsidemargin
                                                            \{.25in\}
                 653 (12pt)
                 654 (10pt)
                               \setlength\evensidemargin
                                                           {1.5in}
                 655 (11pt)
                               \setlength\evensidemargin
                                                            {1.25in}
                 656 (12pt)
                               \setlength\evensidemargin
                                                           \{1.25in\}
                 657 (10pt)
                               \setlength\marginparwidth {.75in}
                 658 (11pt)
                               \setlength\marginparwidth {1in}
                 659 (12pt)
                               \setlength\marginparwidth {1in}
                 660 (/bk)
                  互換モード、横組、report と article クラスの場合:
                 661 (*!bk)
                         \if@twoside
                 662
                 663 (10pt)
                                 \setlength\oddsidemargin
                                                              {44\p@}
                 664 (11pt)
                                 \setlength\oddsidemargin
                                                              {36\p@}
                                 \strut \
                 665 (12pt)
                                                              {21\p@}
                                 \setlength\evensidemargin
                 666 (10pt)
                                                             {82\p@}
                                 \setlength\evensidemargin
                                                              {74\p@}
                 667 (11pt)
                                 \setlength\evensidemargin
                 668 (12pt)
                                                             {59\p@}
                 669 (10pt)
                                 \setlength\marginparwidth {107\p@}
                 670 (11pt)
                                 \setlength\marginparwidth {100\p@}
                 671 (12pt)
                                 \setlength\marginparwidth {85\p0}
                 672
                         \else
                 673 (10pt)
                                \setlength\oddsidemargin
                                                             {60\p@}
                 674 (11pt)
                                \setlength\oddsidemargin
                                                             {54\p@}
                 675 (12pt)
                                \setlength\oddsidemargin
                                                             \{39.5\p0\}
                 676 (10pt)
                                                             {60\p@}
                                \setlength\evensidemargin
                 677 \langle 11pt \rangle
                                \setlength\evensidemargin
                                                             {54\p@}
                 678 (12pt)
                                \setlength\evensidemargin
                                                             {39.5\p@}
                 679 (10pt)
                                \setlength\marginparwidth
                                                             {90\p@}
                 680 (11pt)
                                \setlength\marginparwidth
                                                             {83\p@}
                 681 (12pt)
                                \setlength\marginparwidth
                                                             {68\p@}
                 682
                      \fi
                 683 (/!bk)
```

```
互換モード、横組、二段組の場合:
     \if@twocolumn
685
        \setlength\oddsidemargin {30\p0}
686
        \setlength\evensidemargin {30\p0}
687
        \fi
688
689 (/yoko)
縦組、横組にかかわらず、スタイルオプション設定ではゼロです。
690
     \if@stysize
691
       \if@twocolumn\else
         \setlength\oddsidemargin{0\p0}
692
         \setlength\evensidemargin{0\p0}
693
694
       \fi
695
   互換モードでない場合:
696 \else
    \setlength\@tempdima{\paperwidth}
698 \text{ (tate)} \quad \text{ (dtolength) (0tempdima{-\textheight)}}
699 \langle yoko \rangle \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
   \oddsidemargin を計算します。
    \if@twoside
700
           \setlength\oddsidemargin{.6\@tempdima}
701 (tate)
            \setlength\oddsidemargin{.4\@tempdima}
702 (yoko)
703
     \else
       \setlength\oddsidemargin{.5\@tempdima}
704
705
     \addtolength\oddsidemargin{-1in}
706
\evensidemargin を計算します。
     \setlength\evensidemargin{\paperwidth}
     \addtolength\evensidemargin{-2in}
         \addtolength\evensidemargin{-\textheight}
710 (yoko) \addtolength\evensidemargin{-\textwidth}
     \addtolength\evensidemargin{-\oddsidemargin}
     \@settopoint\oddsidemargin % 1999.1.6
     \@settopoint\evensidemargin
                    を計算します。ここで、\@tempdima
\marginparwidth
\paperwidth - \textwidth です。
714 \langle *yoko \rangle
     \if@twoside
715
       \setlength\marginparwidth{.6\@tempdima}
716
       \addtolength\marginparwidth{-.4in}
717
718
       \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
719
       \addtolength\marginparwidth{-.4in}
720
721
     \fi
```

```
722
     \ifdim \marginparwidth >2in
       \setlength\marginparwidth{2in}
723
724
725 (/yoko)
   縦組の場合は、少し複雑です。
726 (*tate)
     \setlength\@tempdima{\paperheight}
727
     \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
728
     \addtolength\@tempdima{-\topmargin}
729
     \addtolength\@tempdima{-\headheight}
730
     \addtolength\@tempdima{-\headsep}
731
     \addtolength\@tempdima{-\footskip}
732
     \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
733
734 (/tate)
735 \@settopoint\marginparwidth
736 \fi
```

# 4.4 脚注

\footnotesep \footnotesep は、それぞれの脚注の先頭に置かれる"支柱"の高さです。このクラ スでは、通常の\footnotesizeの支柱と同じ長さですので、脚注間に余計な空白 は入りません。

```
737 \langle 10pt \rangle \setminus setlength \setminus footnotesep \{6.65 \setminus p0\}
738 \langle 11pt \rangle \setminus setlength \setminus footnotesep \{7.7 \setminus p0\}
739 \langle 12pt \rangle \setminus setlength \setminus footnotesep \{8.4 \setminus p0\}
```

\footins \skip\footins は、本文の最終行と最初の脚注との間の距離です。

```
740 (10pt) setlength{\skip\footins}{9\p0 \@plus 4\p0 \@minus 2\p0}
741 \langle 11pt \rangle \setminus \{10pc \ \ \ 4pc \ \ 2pc \}
742 (12pt) \setlength{\skip\footins}{10.8\p0 \@plus 4\p0 \@minus 2\p0}
```

## 4.5 フロート

すべてのフロートパラメータは、IATeX のカーネルでデフォルトが定義されていま す。そのため、カウンタ以外のパラメータは \renewcommand で設定する必要があ ります。

#### 4.5.1 フロートパラメータ

フロートオブジェクトが本文のあるページに置かれるとき、フロートとそのページ \floatsep \textfloatsep にある別のオブジェクトの距離は、これらのパラメータで制御されます。これらの \intextsep パラメータは、一段組モードと二段組モードの段抜きでないフロートの両方で使わ れます。

```
\intextsep は、本文の途中に出力されるフロートと本文との距離です。
743 (*10pt)
744 \setlength\floatsep
                         {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
745 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
                        {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
746 \setlength\intextsep
747 (/10pt)
748 (*11pt)
                         {12\p0 \0plus 2\p0 \0minus 2\p0}
749 \setlength\floatsep
750 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
751 \setlength\intextsep
                        {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
752 (/11pt)
753 (*12pt)
754 \setlength\floatsep
                         {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
755 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
756 \setlength\intextsep \{14\p0\ \p0\ 4\p0\ \p0\ 4\p0\}
757 (/12pt)
```

\floatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。

\textfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。

\dblfloatsep

二段組モードで、\textwidth の幅を持つ、段抜きのフロートオブジェクトが本 \dbltextfloatsep 文と同じページに置かれるとき、本文とフロートとの距離は、\dblfloatsep と \dbltextfloatsep によって制御されます。

> \dblfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。 \dbltextfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。

```
758 (*10pt)
759 \setlength\dblfloatsep
                              {12\p0 \0plus 2\p0 \0minus 2\p0}
760 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
761 (/10pt)
762 (*11pt)
                              {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@}
763 \setlength\dblfloatsep
764 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
765 (/11pt)
766 (*12pt)
767 \setlength\dblfloatsep
                              {14\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
768 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}
769 (/12pt)
```

フロートオブジェクトが、独立したページに置かれるとき、このページのレイアウ \@fptop トは、次のパラメータで制御されます。これらのパラメータは、一段組モードか、 二段組モードでの一段出力のフロートオブジェクトに対して使われます。 \@fpbot

> ページ上部では、\@fptopの伸縮長が挿入されます。ページ下部では、\@fpbot の伸縮長が挿入されます。フロート間には \Ofpsep が挿入されます。

> なお、そのページを空白で満たすために、\@fptopと\@fpbotの少なくともどち らか一方に、plus ...fil を含めてください。

```
770 (*10pt)
              771 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
              772 \setlength\@fpsep{8\p@ \@plus 2fil}
              773 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
              774 (/10pt)
              775 (*11pt)
              776 \setlength\@fptop\{0\p @ \p \ 1fil}
              777 \setlength\@fpsep{8\p0\ \p0\ 2fil}
              778 \setlength\@fpbot\{0\p@\qplus\ 1fil\}
              779 (/11pt)
              780 (*12pt)
              781 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
              782 \setlength\@fpsep{10\p@ \@plus 2fil}
              783 \setlength\@fpbot\{0\poullet \@plus 1fil}
              784 (/12pt)
               二段組モードでの二段抜きのフロートに対しては、これらのパラメータが使われま
    \@dblfptop
    \@dblfpsep す。
    \@dblfpbot 785 \ \langle *10pt \rangle
              786 \setlength\@dblfptop\{0\p0\ \p0\ 1fil\}
              787 \setlength\@dblfpsep{8\p@ \@plus 2fil}
              788 \setlength\@dblfpbot{0\p@ \@plus 1fil}
              789 (/10pt)
              790 (*11pt)
              791 \setlength\@dblfptop{0\p@ \@plus 1fil}
              792 \setlength\@dblfpsep{8\p@ \@plus 2fil}
              793 \setlength\@dblfpbot{0\p@ \@plus 1fil}
              794 (/11pt)
              795 (*12pt)
              797 \setlength\@dblfpsep{10\p@ \@plus 2fil}
              798 \setlength\@dblfpbot{0\p@ \@plus 1fil}
              799 (/12pt)
              800 (/10pt | 11pt | 12pt)
               4.5.2 フロートオブジェクトの上限値
  \c@topnumber topnumberは、本文ページの上部に出力できるフロートの最大数です。
               801 (*article | report | book)
              802 \setcounter{topnumber}{2}
\c@bottomnumber bottomnumberは、本文ページの下部に出力できるフロートの最大数です。
               803 \setcounter{bottomnumber}{1}
\c@totalnumber totalnumberは、本文ページに出力できるフロートの最大数です。
```

804 \setcounter{totalnumber}{3}

\c@dbltopnumber dbltopnumberは、二段組時における、本文ページの上部に出力できる段抜きのフロートの最大数です。

805 \setcounter{dbltopnumber}{2}

\topfraction これは、本文ページの上部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いです。 806 \renewcommand{\topfraction}{.7}

\bottomfraction これは、本文ページの下部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いです。
807 \renewcommand{\bottomfraction}{.3}

\textfraction これは、本文ページに最低限、入らなくてはならない本文の割り合いです。
808 \renewcommand{\textfraction}{.2}

\floatpagefraction これは、フロートだけのページで最低限、入らなくてはならないフロートの割り合いです。

809 \renewcommand{\floatpagefraction}{.5}

\dbltopfraction これは、2段組時における本文ページに、2段抜きのフロートが占めることができる最大の割り合いです。

810 \renewcommand{\dbltopfraction}{.7}

\dblfloatpagefraction これは、2段組時におけるフロートだけのページに最低限、入らなくてはならない 2段抜きのフロートの割り合いです。

811 \renewcommand{\dblfloatpagefraction} $\{.5\}$ 

# 5 改ページ(日本語 T<sub>E</sub>X 開発コミュニティ版のみ)

\pltx@cleartorightpage
\pltx@cleartoleftpage
\pltx@cleartooddpage
\pltx@cleartoevenpage

\cleardoublepage 命令は、IATeX カーネルでは「奇数ページになるまでページを 繰る命令」として定義されています。しかし pIATeX カーネルでは、アスキーの方 針により「横組では奇数ページになるまで、縦組では偶数ページになるまでページ を繰る命令」に再定義されています。すなわち、pIATeX では縦組でも横組でも右 ページになるまでページを繰ることになります。

pIFT<sub>E</sub>X 標準クラスの book は、横組も縦組も openright がデフォルトになっていて、これは従来 pIFT<sub>E</sub>X カーネルで定義された \cleardoublepage を利用していました。しかし、縦組で奇数ページ始まりの文書を作りたい場合もあるでしょうから、コミュニティ版クラスでは以下の(非ユーザ向け)命令を追加します。

- 1. \pltx@cleartorightpage: 右ページになるまでページを繰る命令
- 2. \pltx@cleartoleftpage: 左ページになるまでページを繰る命令

- 3. \pltx@cleartooddpage: 奇数ページになるまでページを繰る命令
- 4. \pltx@cleartoevenpage: 偶数ページになるまでページを繰る命令

```
812 \def\pltx@cleartorightpage{\clearpage\if@twoside
813
              \ifodd\c@page
814
                     \IfDirectionTateT{%
815
                           \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                           \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
816
                     }%
817
               \else
818
                     \IfDirectionYokoT{%
819
                           \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
820
                           \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
821
822
                     }%
            \fi\fi}
824 \def\pltx@cleartoleftpage{\clearpage\if@twoside
              \ifodd\c@page
                     \IfDirectionYokoT{%
826
                           \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
827
                           \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
828
                     }%
829
830
               \else
                     \IfDirectionTateT{%
831
832
                           \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
833
                           \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
                     }%
834
              \fi\fi}
        \pltx@cleartooddpage は LATFX の \cleardoublepage に似ていますが、上の 2
  つに合わせるため \thispagestyle{empty} を追加してあります。
\ifodd\c@page\else
                     \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
838
                     \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
839
            \fi\fi}
841 \ensuremath{\mbox{\sc Number of Clearpage \sc Nu
              \ifodd\c@page
                     \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
843
                     \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
844
```

\cleardoublepage

そして report と book クラスの場合は、ユーザ向け命令である \cleardoublepage を、openright オプションが指定されている場合は \pltx@cleartorightpage に、openleft オプションが指定されている場合は \pltx@cleartoleftpage に、それ ぞれ \let します。openany の場合は plxTpX カーネルの定義のままです。

```
846 \ \langle *! article \rangle 847 \ \ if@openleft
```

```
848 \let\cleardoublepage\pltx@cleartoleftpage 
849 \else\if@openright 
850 \let\cleardoublepage\pltx@cleartorightpage 
851 \fi\fi 
852 \langle!article\rangle
```

# 6 ページスタイル

pIATeX  $2\varepsilon$ では、つぎの 6 種類のページスタイルを使用できます。 emptyは ltpage.dtx で定義されています。

empty ヘッダにもフッタにも出力しない plain フッタにページ番号のみを出力する headnombre ヘッダにページ番号のみを出力する footnombre フッタにページ番号のみを出力する headings ヘッダに見出しとページ番号を出力する

bothstyle ヘッダに見出し、フッタにページ番号を出力するページスタイル fooは、\ps@foo コマンドとして定義されます。

\@evenhead これらは \ps@... から呼び出され、ヘッダとフッタを出力するマクロです。

\@oddhead \@oddhead 奇数ページのヘッダを出力 \@evenfoot \@oddfoot 奇数ページのフッタを出力 \@oddfoot 偶数ページのヘッダを出力 \@evenfoot 偶数ページのフッタを出力

これらの内容は、横組の場合は \textwidth の幅を持つ \hbox に入れられ、縦組の場合は \textheight の幅を持つ \hbox に入れられます。

#### 6.1 マークについて

ヘッダに入る章番号や章見出しは、見出しコマンドで実行されるマークコマンドで決定されます。ここでは、実行されるマークコマンドの定義を行なっています。これらのマークコマンドは、 $T_{\rm E}X$ の \mark 機能を用いて、'left' と 'right' の 2 種類のマークを生成するように定義しています。

\markboth{ $\langle LEFT \rangle$ }{ $\langle RIGHT \rangle$ }: 両方のマークに追加します。 \markright{ $\langle RIGHT \rangle$ }: '右' マークに追加します。

\leftmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の "左" マークを出力します。\leftmark は  $T_EX$  の \botmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

\rightmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の "右" マークを出力します。\rightmark は  $T_{EX}$  の \firstmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

マークコマンドの動作は、左マークの'範囲内の' 右マークのために合理的になっています。たとえば、左マークは \chapter コマンドによって変更されます。そして右マークは \section コマンドによって変更されます。しかし、同一ページに複数の \markboth コマンドが現れたとき、おかしな結果となることがあります。

\tableofcontents のようなコマンドは、\@mkboth コマンドを用いて、あるページスタイルの中でマークを設定しなくてはなりません。\@mkboth は、\ps@...コマンドによって、\markboth(ヘッダを設定する)か、\@gobbletwo(何もしない)に\let されます。

# 6.2 plain ページスタイル

\ps@plain jpl@in に \let するために、ここで定義をします。

- $853 \ensuremath{$
- 854 \let\ps@jpl@in\ps@plain
- 855 \let\@oddhead\@empty
- $\label{lem:solution} $856 \qquad \texttt{\endown} $$ \endown{$\operatorname{cont}\left(\frac{1}{\kappa}\right) $} $$$
- 857 \let\@evenhead\@empty
- 858 \let\@evenfoot\@oddfoot}

# 6.3 jpl@in ページスタイル

\ps@jpl@in jpl@in スタイルは、クラスファイル内部で使用するものです。 $IMT_{EX}$  では、book クラスを headingsとしています。しかし、\tableof contents コマンドの内部では plain として設定されるため、一つの文書でのページ番号の位置が上下に出力される ことになります。

そこで、pIFTEX  $2_\varepsilon$ では、\tableof contents や\theindex のページスタイルを jpl@in にし、実際に出力される形式は、ほかのページスタイルで \let をしています。したがって、headingsのとき、目次ページのページ番号はヘッダ位置に出力され、plain のときには、フッタ位置に出力されます。

ここで、定義をしているのは、その初期値です。

859 \let\ps@jpl@in\ps@plain

#### 6.4 headnombre ページスタイル

\ps@headnombre headnombreスタイルは、ヘッダにページ番号のみを出力します。
860 \def\ps@headnombre{\let\@mkboth\@gobbletwo

#### 6.5 footnombre ページスタイル

\ps@footnombre footnombreスタイルは、フッタにページ番号のみを出力します。
867 \def\ps@footnombre{\let\@mkboth\@gobbletwo

# 6.6 headings スタイル

headingsスタイルは、ヘッダに見出しとページ番号を出力します。

\ps@headings このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。

 $874 \if@twoside$ 

横組の場合は、奇数ページが右に、偶数ページが左にきます。縦組の場合は、奇数ページが左に、偶数ページが右にきます。

```
\def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
875
       \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty
876
             \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}%
877 (yoko)
878 (voko)
             \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
             \def\@evenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}%
879 (tate)
             \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
880 (tate)
       \let\@mkboth\markboth
882 (*article)
        \def\sectionmark##1{\markboth{%
883
           \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
884
           ##17{}}%
885
886
        \def\subsectionmark##1{\markright{%
           \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1\zw\fi
887
888
889 (/article)
890 (*report | book)
     \def\chaptermark##1{\markboth{%
892
         \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
893 (book)
                 \if@mainmatter
             \verb|\@chapapp| the chapter | @chappos | hskip1 | zw
894
```

```
\fi
895 (book)
                                 \fi
896
897
                                 ##1}{}}%
898
                     \def\sectionmark##1{\markright{%
                                 \ \coloredge \colore
899
                                ##1}}%
900
901 \langle /\text{report} \mid \text{book} \rangle
902
               }
   片面印刷の場合:
903 \ge \% if not twoside
                   \def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
                            \let\@oddfoot\@empty
905
                                                 906 (yoko)
                                               907 (tate)
908
                            \let\@mkboth\markboth
909 (*article)
910
                    \def\sectionmark##1{\markright{%
                                 \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1\zw\fi
911
912
                                 ##1}}%
913 (/article)
914 (*report | book)
915 \def\chaptermark##1{\markright{%
                        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
916
917 (book)
                                                      \if@mainmatter
                                         \ensuremath{\verb|@chapapp|thechapter|@chappos|hskip1|zw}
918
919 \langle \mathsf{book} \rangle
920
                        \fi
921
                        ##1}}%
922~\langle/\mathsf{report}\mid\mathsf{book}\rangle
924 \fi
```

# 6.7 bothstyle スタイル

\ps@bothstyle bothstyleスタイルは、ヘッダに見出しを、フッタにページ番号を出力します。 このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。

```
925 \setminus if@twoside
    \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
926
927 (*yoko)
       \def\@evenhead{\leftmark\hfil}% right page
928
       \def\@evenfoot{\thepage\hfil}% right page
929
930
       \def\@oddhead{\hfil\rightmark}% left page
       \def\@oddfoot{\hfil\thepage}% left page
931
932 (/yoko)
933 (*tate)
934
       \def\@evenhead{\hfil\leftmark}% right page
935
```

```
\def\@oddhead{\rightmark\hfil}% left page
936
                                \def\@oddfoot{\thepage\hfil}% left page
937
938 (/tate)
                     \let\@mkboth\markboth
939
940 (*article)
                      \def\sectionmark##1{\markboth{%
941
                                    \ \coloredge \colore
942
943
                                    ##1}{}}%
                       \def\subsectionmark##1{\markright{%
944
                                    \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1\zw\fi
945
                                    ##1}}%
946
947 (/article)
948 (*report | book)
              \def\chaptermark#1{\markboth{%
950
                                    \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
951 (book)
                                                                    \if@mainmatter
                                                     952
                                                                    \fi
953 (book)
                                    \fi
954
955
                                    ##1}{}}%
956
                       \def\sectionmark##1{\markright{%
                                    \ \coloredge \colore
957
958
                                    ##1}}%
959 (/report | book)
                    }
961 \else % if one column
                 \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
                                                     \def\@oddhead{\hfil\rightmark}%
963 (yoko)
                                                      \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%
964 (yoko)
                                                    965 \langle tate \rangle
                                                    \def\@oddfoot{\thepage\hfil}%
966 (tate)
967
                              \let\@mkboth\markboth
968 (*article)
969
                      \def\sectionmark##1{\markright{%
                                    \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1\zw\fi
970
                                    ##1}}%
971
972 (/article)
973 (*report | book)
                     \def\chaptermark##1{\markright{%
974
                                    \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
975
976 (book)
                                                                    \if@mainmatter
                                                     \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
977
978 (book)
979
                                    \fi
                                    ##1}}%
980
981 \langle /\text{report} \mid \text{book} \rangle
982 }
983 \fi
```

# 6.8 myheading スタイル

\ps@myheadings myheadingsページスタイルは簡潔に定義されています。ユーザがページスタイルを 設計するときのヒナ型として使用することができます。

```
984 \def\ps@myheadings{\let\ps@jpl@in\ps@plain%
985 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty
986 \(yoko\) \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}%
987 \(yoko\) \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
988 \(\tate\) \def\@evenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}%
989 \(\tate\) \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
990 \let\@mkboth\@gobbletwo
991 \(\text{!article}\) \let\chaptermark\@gobble
992 \let\sectionmark\@gobble
993 \(\tatricle\) \let\subsectionmark\@gobble
994 \}
```

# 7 文書コマンド

## 7.1 表題

\title 文書のタイトル、著者、日付の情報のための、これらの3つのコマンドはltsect.dtx \author で提供されています。これらのコマンドは次のように定義されています。

```
\date 995 %\DeclareRobustCommand*{\title}[1]{\gdef\@title{#1}} 996 %\DeclareRobustCommand*{\author}[1]{\gdef\@author{#1}} 997 %\DeclareRobustCommand*{\date}[1]{\gdef\@date{#1}}
```

\date マクロのデフォルトは、今日の日付です。

998  $\Lambda = {\hat y}$ 

titlepage 通常の環境では、ページの最初と最後を除き、タイトルページ環境は何もしません。 また、ページ番号の出力を抑制します。レポートスタイルでは、ページ番号を1に リセットし、そして最後で1に戻します。互換モードでは、ページ番号はゼロに設 定されますが、右起こしページ用のページパラメータでは誤った結果になります。 二段組スタイルでも一段組のページが作られます。

日本語  $T_{EX}$  開発コミュニティによる変更:上にあるのはアスキー版の説明です。改めてアスキー版の挙動を整理すると、以下のようになります。

1. アスキー版では、タイトルページの番号を必ず1にリセットしていましたが、これは正しくありません。これは、タイトルページが奇数ページ目か偶数ページ目かにかかわらず、レイアウトだけ奇数ページ用が適用されてしまうからです。さらに、タイトルの次のページも偶数のページ番号を持ってしまうため、両面印刷で奇数ページと偶数ページが交互に出なくなるという問題もあります。

2. アスキー版 book クラスは、タイトルページを必ず \cleardoublepage で始めていました。plateX カーネルでの \cleardoublepage の定義から、縦組の既定ではタイトルが偶数ページ目に出ることになります。これ自体が正しくないと断定することはできませんが、タイトルのページ番号を1にリセットすることと合わさって、偶数ページに送ったタイトルに奇数ページ用レイアウトが適用されてしまうという結果は正しくありません。

そこで、コミュニティ版ではタイトルのレイアウトが必ず奇数ページ用になるという挙動を支持し、book クラスではタイトルページを奇数ページ目に送ることにしました。これでタイトルページが表紙らしく見えるようになります。また、report クラスのようなタイトルが成り行きに従って出る場合には

- ・ 奇数ページ目に出る場合、ページ番号を 1(奇数)にリセット
- ・ 偶数ページ目に出る場合、ページ番号を 0 (偶数) にリセット

#### としました。

一つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

#### アスキー版 tbook クラスでの結果は

1ページ目:空白(ページ番号1は非表示)

2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

3ページ目:チャプター (偶数レイアウト、ページ番号 2)

#### ですが、仮に最初の空白ページさえなければ

1ページ目:タイトルすなわち表紙(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

2ページ目:チャプター (偶数レイアウト、ページ番号 2)

とみなせるため、コミュニティ版では空白ページを発生させないようにしました。 二つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
テスト文章
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

```
アスキー版 tbook クラスでの結果は
```

```
1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号1)
2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)
3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号2)
```

ですが、これでは奇数と偶数のページ番号が交互になっていないので正しくありま せん。そこで、コミュニティ版では

```
1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号1)
2ページ目:空白ページ(ページ番号2は非表示)
3ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)
4ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号2)
```

#### と直しました。

なお、pIATeX 2.09 互換モードはアスキー版のまま、すなわち「ページ番号をゼロ に設定」としてあります。これは、横組の右起こしの挙動としては誤りですが、縦 組の右起こしの挙動としては一応正しくなっているといえます。

最初に互換モードの定義を作ります。

```
999 \if@compatibility
1000 \newenvironment{titlepage}
1001
1002 \langle \mathsf{book} \rangle
              \cleardoublepage
        \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
1003
1004
        \else\@restonecolfalse\newpage\fi
1005
        \thispagestyle{empty}%
1006
        \setcounter{page}\z@
       ጉ%
1007
1008
       {\c {\tt if@restonecol\twocolumn\else\newpage\fi}}
1009
   そして、IATeX ネイティブのための定義です。
1010 \ensuremath{\setminus} \text{else}
1011 \newenvironment{titlepage}
1012
       {%
               \pltx@cleartooddpage %% 2017/02/15
1013 (book)
1014
         \if@twocolumn
1015
           \@restonecoltrue\onecolumn
1016
         \else
1017
           \@restonecolfalse\newpage
         \fi
1018
1019
         \thispagestyle{empty}%
         1020
1021
       {\if@restonecol\twocolumn \else \newpage \fi
1022
 両面モードでなければ、タイトルページの直後のページのページ番号も1にします。
```

1023 \if@twoside\else 1024 \setcounter{page}\@ne

```
1025 \fi
1026 }
1027 \fi
```

\maketitle このコマンドは、表題を作成し、出力します。表題ページを独立させるかどうかに よって定義が異なります。report と book クラスのデフォルトは独立した表題です。 article クラスはオプションで独立させることができます。

\p@thanks 縦組のときは、\thanks コマンドを \p@thanks に \let します。このコマンドは \footnotetext を使わず、直接、文字を \@thanks に格納していきます。

著者名の脇に表示される合印は直立した数字、注釈側は横に寝た数字となっていましたが、不自然なので \hbox{\yoko ...} を追加し、両方とも直立するようにしました。

```
1028 \def\p@thanks#1{\footnotemark
1029
      \protected@xdef\@thanks{\@thanks
        \protect{\noindent\xltjc@yoko@hbox{$\m@th^\thefootnote$}#1\protect\par}}}
1030
1031 \if@titlepage
      \newcommand{\maketitle}{\begin{titlepage}%
1032
      \let\footnotesize\small
1033
      \let\footnoterule\relax
1034
1035 (tate) \let\thanks\p@thanks
      \let\footnote\thanks
1036
1037 (tate) \xltjc@tate@vbox@to@ht{\textheight}{\hsize\textwidth
      \left\langle \right\rangle 
1038
1039
      \vskip 60\p@
      \begin{center}%
1040
        {\LARGE \@title \par}%
1041
        \vskip 3em%
1042
1043
        {\Large
         \lineskip .75em%
1044
          \begin{tabular}[t]{c}%
1045
1046
            \@author
1047
          \end{tabular}\par}%
          \vskip 1.5em%
1049
        {\large \@date \par}%
                                      % Set date in \large size.
1050
      \end{center}\par
          \vfil{\centering\@thanks}\vfil\null
1051 (tate)
1052 (tate)
          }%
1053 (yoko) \@thanks\vfil\null
      \end{titlepage}%
1054
```

footnoteカウンタをリセットし、\thanks と \maketitle コマンドを無効にし、いくつかの内部マクロを空にして格納領域を節約します。

```
1055 \setcounter{footnote}{0}% 1056 \global\let\thanks\relax
```

```
1057
     \global\let\maketitle\relax
     \global\let\p@thanks\relax
1058
     \global\let\@thanks\@empty
1059
1060
     \global\let\@author\@empty
1061
     \global\let\@date\@empty
     \global\let\@title\@empty
1062
  タイトルが組版されたら、\title コマンドなどの宣言を無効にできます。\and の
 定義は、\author の引数でのみ使用しますので、破棄します。
1063
     \global\let\title\relax
1064
     \global\let\author\relax
1065
     \global\let\date\relax
1066
     \global\let\and\relax
     }%
1067
1068 \else
1069
     \newcommand{\maketitle}{\par
1070
     \begingroup
1071
       \renewcommand{\thefootnote}{\fnsymbol{footnote}}%
       1072
         }{\xltjc@yoko@hbox{$\m@th^{\@thefnmark}$}}}}%
1073
1074 (*tate)
1075
        \long\def\@makefntext##1{\parindent 1\zw\noindent
           \hb@xt@ 2\zw{\hss\@makefnmark}##1}%
1076
1077 (/tate)
1078 (*yoko)
         \label{longdef} $$ \lceil \log \det \mathbb{Q} = 1 . $$ \colored lem \cap \mathbb{C} .
1079
           \label{local_sem} $$\hss$\m@th^{\Omega thefnmark}$}$$
1080
1081 (/yoko)
       \if@twocolumn
1082
         \ifnum \col@number=\@ne \@maketitle
1083
         \else \twocolumn[\@maketitle]%
1084
         \fi
1085
1086
        \else
1087
         \newpage
         \global\@topnum\z@
                              % Prevents figures from going at top of page.
1088
1089
         \@maketitle
1090
       \fi
        \thispagestyle{jpl@in}\@thanks
1091
  ここでグループを閉じ、footnoteカウンタをリセットし、\thanks, \maketitle,
 \@maketitle を無効にし、いくつかの内部マクロを空にして格納領域を節約しま
  す。
1092
     \endgroup
1093
     \setcounter{footnote}{0}%
1094
     \global\let\thanks\relax
     \verb|\global| let\\| maketitle\\| relax|
1095
     \global\let\@maketitle\relax
1096
     \global\let\p@thanks\relax
1097
     \global\let\@thanks\@empty
1098
```

```
1099
                 \global\let\@author\@empty
                 \global\let\@date\@empty
           1100
                 \global\let\@title\@empty
           1102
                 \global\let\title\relax
           1103
                 \global\let\author\relax
                 \global\let\date\relax
           1104
                 \global\let\and\relax
           1105
                 }
           1106
            独立した表題ページを作らない場合の、表題の出力形式です。
\@maketitle
                 \def\@maketitle{%
           1107
                 \newpage\null
           1108
                 \vskip 2em%
           1109
                 \begin{center}%
           1110
           1111 (yoko) \let\footnote\thanks
           1112 <tate> \let\footnote\p@thanks
           1113
                   {\LARGE \@title \par}%
           1114
                   \vskip 1.5em%
           1115
                   {\large
           1116
                     \displaystyle \ .5em%
           1117
                     \begin{tabular}[t]{c}%
                       \@author
           1118
                     \end{tabular}\par}%
           1119
                   \vskip 1em%
           1120
           1121
                   {\large \@date}%
                 \end{center}%
           1122
           1123
                 \par\vskip 1.5em}
           1124 \fi
```

#### 7.2 概要

abstract 要約文のための環境です。book クラスでは使えません。report スタイルと、titlepage オプションを指定した article スタイルでは、独立したページに出力されます。

```
1125 (*article | report)
1126 \if@titlepage
      \newenvironment{abstract}{%
1128
           \titlepage
           \null\vfil
1129
1130
           \@beginparpenalty\@lowpenalty
           \verb|\begin{center}| %
1131
             {\bfseries\abstractname}%
1132
             \@endparpenalty\@M
1133
1134
           \end{center}}%
           {\pi \over il\null\enditlepage}
1135
1136 \else
      \newenvironment{abstract}{%
1138
        \if@twocolumn
```

```
1139
           \section*{\abstractname}%
         \else
1140
1141
           \small
1142
           \begin{center}%
             {\bfseries\abstractname\vspace{-.5em}\vspace{\z0}}\%
1143
1144
           \end{center}%
           \quotation
1145
         \fi}{\if@twocolumn\else\endquotation\fi}
1146
1147 \fi
1148 (/article | report)
```

# 7.3 章見出し

#### 7.3.1 マークコマンド

```
\chaptermark \...mark コマンドを初期化します。これらのコマンドはページスタイルの定義で \sectionmark 使われます(第 6節参照)。これらのたいていのコマンドは ltsect.dtx ですでに定 \subsectionmark 義されています。
\subsubsectionmark 1149 ⟨!article⟩\newcommand*{\chaptermark}[1]{}
\paragraphmark 1150 %\newcommand*{\subsectionmark}[1]{}
\subparagraphmark 1151 %\newcommand*{\subsectionmark}[1]{}
\subparagraphmark 1152 %\newcommand*{\subsubsectionmark}[1]{}

1153 %\newcommand*{\subparagraphmark}[1]{}

1154 %\newcommand*{\subparagraphmark}[1]{}
```

#### 7.3.2 カウンタの定義

```
\c@secnumdepth secnumdepthには、番号を付ける、見出しコマンドのレベルを設定します。

1155 \article\\setcounter{secnumdepth}{3}

1156 \(\frac{1}{2}\)
```

\c@chapter これらのカウンタは見出し番号に使われます。最初の引数は、二番目の引数が増加 \c@section するたびにリセットされます。二番目のカウンタはすでに定義されているものでな \c@subsection くてはいけません。 \c@subsubsection 1157 \newcounter{part}

\thepart \theCTRが実際に出力される形式の定義です。

\thechapter

\thesection 42

\thesubsection

\thesubsubsection

\theparagraph

\thesubparagraph

```
\arabic{COUNTER} は、COUNTERの値を算用数字で出力します。
                          \roman{COUNTER} は、COUNTERの値を小文字のローマ数字で出力します。
                          \Roman{COUNTER} は、COUNTERの値を大文字のローマ数字で出力します。
                          \alph{COUNTER} は、\alph{COUNTER}の値を 1 = a, 2 = b のようにして出力しま
                     す。
                          Alph\{COUNTER\} は、COUNTERの値を 1 = A, 2 = B のようにして出力しま
                     す。
                          \Kanji{COUNTER} は、COUNTERの値を漢数字で出力します。
                          \rensuji\{\langle obj \rangle\}は、\langle obj \rangleを横に並べて出力します。したがって、横組のときに
                     は、何も影響しません。
                  1167 (*tate)
                  1168 \renewcommand{\thepart}{\rensuji{\QRoman\cQpart}}
                  1169 \article\\renewcommand{\thesection}{\rensuji{\Carabic\c@section}}
                  1170 (*report | book)
                  1171 \renewcommand{\thechapter}{\rensuji{\@arabic\c@chapter}}
                  1172 \renewcommand{\thesection}{\thechapter{} \cdot \rensuji{\darabic\c@section}}
                  1173 (/report | book)
                  1174 \renewcommand{\thesubsection}{\thesection}} \rensuji{\Qarabic\cQsubsection}}
                  1175 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                                \thesubsection{} · \rensuji{\@arabic\c@subsubsection}}
                  1176
                  1177 \renewcommand{\theparagraph}{%
                                \thesubsubsection{} • \rensuji{\@arabic\c@paragraph}}
                  1179 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                                \verb|\theparagraph|{} \cdot \verb|\coloredge| a rabic \verb|\coloredge| coloredge| coloredge| a rabic \verb|\coloredge| coloredge| colored
                  1180
                  1181 (/tate)
                  1182 (*yoko)
                  1183 \renewcommand{\thepart}{\@Roman\c@part}
                  1184 \article\\renewcommand{\thesection}{\Qarabic\cQsection}
                  1185 (*report | book)
                  1186 \renewcommand{\thechapter}{\@arabic\c@chapter}
                  1187 \renewcommand{\thesection}{\thechapter.\@arabic\c@section}
                  1188 (/report | book)
                  1189 \renewcommand{\thesubsection}{\thesection.\@arabic\c@subsection}
                  1190 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                  1191
                                 \thesubsection.\@arabic\c@subsubsection}
                  1192 \renewcommand{\theparagraph}{%
                                \thesubsubsection.\@arabic\c@paragraph}
                  1194 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                  1195
                                \theparagraph.\@arabic\c@subparagraph}
                  1196 (/yoko)
\@chapapp \@chapapp の初期値は '\prechaptername' です。
\@chappos
                          \@chappos の初期値は \\postchaptername' です。
                          \appendix コマンドは \@chapapp を '\appendixname' に、\@chappos を空に再
                     定義します。
```

#### 7.3.3 前付け、本文、後付け

\frontmatter \mainmatter \backmatter 一冊の本は論理的に3つに分割されます。表題や目次や「はじめに」あるいは権利などの前付け、そして本文、それから用語集や索引や奥付けなどの後付けです。

日本語  $T_{E\!X}$  開発コミュニティによる補足: $I_{A\!Y}$  の classes.dtx は、1996/05/26 (v1.3r) と 1998/05/05 (v1.3y) の計 2 回、\frontmatter と \mainmatter の定義を修正しています。一回目はこれらの命令を openany オプションに応じて切り替え、二回目はそれを元に戻しています。アスキーによる jclasses.dtx は、1997/01/15 に一回目の修正に追随しましたが、二回目の修正には追随していません。コミュニティ版では、一旦はアスキーによる仕様を維持しようと考えました (2016/11/22) が、以下の理由により二回目の修正にも追随することにしました (2017/03/05)。

アスキー版での \frontmatter と \mainmatter の改ページ挙動は

openright なら \cleardoublepage 、openany なら \clearpage を実行

というものでした。しかし、\frontmatter 及び \mainmatter はノンブルを1 にリセットしますから、改ページの結果が偶数ページ目になる場合 $^1$  にノンブルが偶奇 逆転してしまいました。このままでは openany の場合に両面印刷がうまくいかないため、新しいコミュニティ版では

必ず \pltx@cleartooddpage を実行

としました。これは両面印刷 (twoside) の場合は奇数ページに送り、片面印刷 (oneside) の場合は単に改ページとなります。(参考:latex/2754)

```
1201 (*book)
1202 \newcommand{\frontmatter}{%
      \pltx@cleartooddpage
      \@mainmatterfalse\pagenumbering{roman}}
1205 \newcommand{\mainmatter}{%
1206
     \pltx@cleartooddpage
      \@mainmattertrue\pagenumbering{arabic}}
1207
1208 \ \texttt{\label{lockmatter}} \\ \{\%
      \if@openleft \cleardoublepage \else
1209
      \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
1210
1211
      \@mainmatterfalse}
1212 (/book)
```

 $<sup>^1</sup>$ 縦 tbook のデフォルト (openright) が該当するほか、横 jbook と縦 tbook の openany のときには成り行き次第で該当する可能性があります。

#### 7.3.4 ボックスの組み立て

クラスファイル定義の、この部分では、\@startsectionと\secdefの二つの内部マクロを使います。これらの構文を次に示します。

\@startsectionマクロは6つの引数と1つのオプション引数 '\*'を取ります。 \@startsection $\langle name \rangle \langle level \rangle \langle indent \rangle \langle beforeskip \rangle \langle afterskip \rangle \langle style \rangle$  optional \*

それぞれの引数の意味は、次のとおりです。

〈name〉 レベルコマンドの名前です (例:section)。

 $[\langle altheading \rangle] \langle heading \rangle$ 

 $\langle level \rangle$  見出しの深さを示す数値です(chapter=1, section=2, ...)。" $\langle level \rangle <= カ$  ウンタ secnumdepth の値"のとき、見出し番号が出力されます。

(indent) 見出しに対する、左マージンからのインデント量です。

〈**beforeskip**〉 見出しの上に置かれる空白の絶対値です。負の場合は、見出しに続くテキストのインデントを抑制します。

 $\langle afterskip \rangle$  正のとき、見出しの後の垂直方向のスペースとなります。負の場合は、 見出しの後の水平方向のスペースとなります。

〈style〉 見出しのスタイルを設定するコマンドです。

(\*) 見出し番号を付けないとき、対応するカウンタは増加します。

〈**heading**〉新しい見出しの文字列です。

見出しコマンドは通常、\@startsection と 6 つの引数で定義されています。 \secdef マクロは、見出しコマンドを \@startsection を用いないで定義すると きに使います。このマクロは、2 つの引数を持ちます。

 $\scalebox{secdef}\langle unstarcmds\rangle\langle starcmds\rangle$ 

〈unstarcmds〉 見出しコマンドの普通の形式で使われます。

 $\langle starcmds \rangle *$ 形式の見出しコマンドで使われます。

\secdef は次のようにして使うことができます。

\def\chapter {... \secdef \CMDA \CMDB }
\def\CMDA [#1]#2{....} % \chapter[...] {...} の定義
\def\CMDB #1{....} % \chapter\*{...} の定義

#### 7.3.5 part レベル

\part このコマンドは、新しいパート(部)をはじめます。 article クラスの場合は、簡単です。

新しい段落を開始し、小さな空白を入れ、段落後のインデントを行い、\secdef で作成します。(アスキーによる元のドキュメントには「段落後のインデントをしないようにし」と書かれていましたが、実際のコードでは段落後のインデントを行っていました。そこで日本語 TeX 開発コミュニティは、ドキュメントをコードに合わせて「段落後のインデントを行い」へと修正しました。)

```
1213 \( \*\article \)
1214 \( \newcommand \\ \part \\ \\ \)
1215 \( \if \emptyreal \) \( \leftrall \) \( \left
```

report と book スタイルの場合は、少し複雑です。

まず、右ページからはじまるように改ページをします。そして、部扉のページスタイルを emptyにします。 2 段組の場合でも、1 段組で作成しますが、後ほど 2 段組に戻すために、emptyについる。 emptyについる。

```
1220 \\ \text{report | book} \\
1221 \\ \text{lnewcommand{\part}{\%}} \\
1222 \\ \text{if@openleft \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi \\
1224 \\ \text{thispagestyle{empty}\%} \\
1225 \\ \text{if@twocolumn\onecolumn\@tempswatrue\else\@tempswafalse\fi \\
1226 \\ \null\vfil \\
1227 \\ \secdef\@part\@spart\\\
1228 \\ \ \ / \text{report | book} \\
\end{array}
```

\@part このマクロが実際に部レベルの見出しを作成します。このマクロも文書クラスによって定義が異なります。

article クラスの場合は、secnum depth が -1 よりも大きいとき、見出し番号を付けます。このカウンタが -1 以下の場合には付けません。

```
1229 (*article)
1230 \def\@part[#1]#2{%
     \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
1232
      \refstepcounter{part}%
1233
       \addcontentsline{toc}{part}{%
         1234
1235
     \else
      \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
1236
1237
     \fi
     \markboth{}{}%
1238
```

```
{\parindent\z@\raggedright
       1239
              \interlinepenalty\@M\normalfont
       1240
       1241
              \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
       1242
                \Large\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
       1243
                \par\nobreak
              \fi
       1244
              \huge\bfseries#2\par}%
       1245
             \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
       1246
       1247 (/article)
           report と book クラスの場合は、secnumdepth が -2 よりも大きいときに、見出し
         番号を付けます。-2以下では付けません。
       1248 \langle *report | book \rangle
       1249 \def\@part[#1]#2{%
             \ifnum \c@secnumdepth >-2\relax
       1250
               \refstepcounter{part}%
       1251
               \addcontentsline{toc}{part}{%
       1252
       1253
                   \prepartname\thepart\postpartname\hspace{1em}#1}%
       1254
             \else
       1255
               \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
       1256
             \fi
       1257
             \markboth{}{}%
       1258
             {\centering
       1259
              \interlinepenalty\@M\normalfont
              1260
       1261
                \huge\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
                \par\vskip20\p@
       1262
       1263
              \fi
              \Huge\bfseries#2\par}%
       1264
              \@endpart}
       1265
       1266 (/report | book)
         このマクロは、番号を付けないときの体裁です。
\@spart
       1267 (*article)
       1268 \def\@spart#1{{%
       1269
             \parindent\z@\raggedright
             \verb|\interline penalty|@M\\|\\normalfont|
       1270
             \huge\bfseries#1\par}%
       1271
             \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
       1272
       1273 (/article)
       1274 (*report | book)
       1275 \def\@spart#1{{%
       1276
             \centering
             \interlinepenalty\@M\normalfont
       1277
             \Huge\bfseries#1\par}%
       1278
             \@endpart}
       1279
       1280 (/report | book)
```

\@endpart \@part と \@spart の最後で実行されるマクロです。両面印刷モードのときは、白ページを追加します。二段組モードのときには、これ以降のページを二段組に戻します。2016 年 12 月から、openany のときに白ページを追加するのをやめました。このバグは I₄TEX では classes.dtx v1.4b (2000/05/19) で修正されていました。(参考:latex/3155、texjporg/jsclasses#48)

```
1281 (*report | book)
1282 \def\@endpart{\vfil\newpage
      \if@twoside
1283
1284
       \if@openleft %% \if@openleft added (2017/02/15)
1285
        \null\thispagestyle{empty}\newpage
       \else\if@openright %% \if@openright added (2016/12/18)
1286
        \null\thispagestyle{empty}\newpage
1287
       \fi\fi \% added (2016/12/18, 2017/02/15)
1288
1289
      \fi
 二段組文書のとき、スイッチを二段組モードに戻す必要があります。
      \if@tempswa\twocolumn\fi}
```

#### 7.3.6 chapter レベル

1291 (/report | book)

chapter 章レベルは、必ずページの先頭から開始します。openright オプションが指定されている場合は、右ページからはじまるように \cleardoublepage を呼び出します。そうでなければ、\clearpage を呼び出します。なお、縦組の場合でも右ページからはじまるように、フォーマットファイルで \clerdoublepage が定義されています。日本語  $T_E X$  開発コミュニティによる補足:コミュニティ版の実装では、openrightと openleft の場合に \cleardoublepage をクラスファイルの中で再々定義しています。5を参照してください。

章見出しが出力されるページのスタイルは、jpl@in になります。jpl@in は、head-nombleか footnombleのいずれかです。詳細は、第 6節を参照してください。

また、\@topnum をゼロにして、章見出しの上にトップフロートが置かれないようにしています。

```
1292 \\ \text{report | book} \\
1293 \\ \newcommand \{ \chapter \} \{\chapter \} \\
1294 \\ \if \( \lefta \) \\ \if \( \lefta \) \\ \chapter \\ \chapter \\ \lefta \\ \lefta \) \\ \if \( \lefta \) \\ \if \(
```

\@chapter このマクロは、章見出しに番号を付けるときに呼び出されます。secnumdepthが-1よりも大きく、\@mainmatterが真(book クラスの場合)のときに、番号を出力し

ます。

日本語  $T_{FX}$  開発コミュニティによる補足:本家  $\LaTeX$  の classes では、二段組 のときチャプタータイトルは一段組に戻されますが、アスキーによる jclasses で は二段組のままにされています。したがって、チャプタータイトルより高い位置に 右カラムの始点が来るという挙動になっていますが、コミュニティ版でもアスキー 版の挙動を維持しています。

```
1300 \def\@chapter[#1]#2{%
                     \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
               1301
               1302 (book)
                            \if@mainmatter
               1303
                       \refstepcounter{chapter}%
                       \typeout{\@chapapp\space\thechapter\space\@chappos}%
               1304
               1305
                       \addcontentsline{toc}{chapter}%
               1306
                        {\protect\numberline{\@chapapp\thechapter\@chappos}#1}%
               1307 (book)
                            \else\addcontentsline{toc}{chapter}{#1}\fi
               1308
                     \else
                      \addcontentsline{toc}{chapter}{#1}%
               1309
                     \fi
               1310
                     \chaptermark{#1}%
               1311
                     \label{logo} $$ \add to contents { lof } {\protect \add vspace { 10 \p0} } % $$
               1312
               1313
                     \addtocontents{lot}{\protect\addvspace{10\p0}}%
                     \@makechapterhead{#2}\@afterheading}
                 このマクロが実際に章見出しを組み立てます。
\@makechapterhead
               1315 \def\@makechapterhead#1{\hbox{}%
               1316
                     \vskip2\Cvs
                     {\operatorname{parindent}} z@
               1317
                      \raggedright
               1318
               1319
                      \normalfont\huge\bfseries
               1320
                      \leavevmode
               1321
                      \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
                        \setlength\@tempdima{\linewidth}%
               1322
               1323 (book)
                            \if@mainmatter
                        1324
                        1325
                        1326
               1327 (book)
                           \fi
               1328
                        \vtop{\hsize\@tempdima#1}%
               1329
                      \else
               1330
                       #1\relax
                      fi}\nobreak\vskip3\Cvs
                 このマクロは、章見出しに番号を付けないときに呼び出されます。
      \@schapter
                   日本語 TeX 開発コミュニティによる補足:やはり二段組でチャプタータイトルよ
                 り高い位置に右カラムの始点が来るという挙動を維持してあります。
               1332 \def\@schapter#1{%
                    \@makeschapterhead{#1}\@afterheading
               1334 }
```

```
\@makeschapterhead 番号を付けない場合の形式です。
```

- 1335 \def\@makeschapterhead#1{\hbox{}%
- 1336 \vskip2\Cvs
- 1337 {\parindent\z@
- 1338 \raggedright
- 1339 \normalfont\huge\bfseries
- 1340 \leavevmode
- 1341 \setlength\@tempdima{\linewidth}%
- $1342 \quad \forall vtop{\hsize\@tempdima#1}}\vskip3\Cvs}$
- 1343 (/report | book)

#### 7.3.7 下位レベルの見出し

\section 見出しの前後に空白を付け、\Large\bfseriesで出力をします。

- 1344 \newcommand{\section}{\Qstartsection{section}{1}{\zQ}%
- 1345 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%
- 1346 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1347 {\normalfont\Large\bfseries}}

\subsection 見出しの前後に空白を付け、\large\bfseries で出力をします。

- 1348 \newcommand{\subsection}{\Qstartsection{subsection}{2}{\zQ}%
- 1349 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%
- 1350 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1351 {\normalfont\large\bfseries}}

\subsubsection 見出しの前後に空白を付け、\normalsize\bfseriesで出力をします。

- 1353 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%
- 1354 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1355 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

\paragraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseriesで出力をします。見出しの後ろで改行されません。

- 1356 \newcommand{\paragraph}{\Qstartsection{paragraph}{4}{\z0}\%
- 1357 {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
- 1358 {-1em}%
- 1359 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

\subparagraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseriesで出力をします。見出しの後ろで改行されません。

- 1361 {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
- 1362 {-1em}%
- 1363 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

# 7.3.8 付録

\appendix article クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- section と subsection カウンタをリセットする。
- \thesection を英小文字で出力するように再定義する。

report と book クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- chapterと section カウンタをリセットする。
- \@chapappを \appendixname に設定する。
- \@chappos を空にする。
- \thechapter を英小文字で出力するように再定義する。

```
 \begin{array}{lll} & 1371 & | export & | book | \\ & 1372 & | excommand & | export & | excounter & | extounter & | extounter
```

#### 7.4 リスト環境

ここではリスト環境について説明をしています。

リスト環境のデフォルトは次のように設定されます。

まず、\rigtmargin, \listparindent, \itemindent をゼロにします。そして、K番目のレベルのリストは \@listKで示されるマクロが呼び出されます。ここで 'K' は小文字のローマ数字で示されます。たとえば、3番目のレベルのリストとして \@listiii が呼び出されます。\@listKは \leftmarginを \leftmarginKに設定します。

```
\leftmargin 二段組モードのマージンは少しだけ小さく設定してあります。
    \verb|\label{leftmargini} 1380 \verb|\label{leftmargini} 1380 \verb|\label{leftmargini} |
   \leftmarginii 1381 \setlength\leftmargini {2em}
                1382 \else
   \setlength\leftmargini {2.5em}
   \leftmarginv 次の3つの値は、\labelsepとデフォルトラベル('(m)', 'vii.', 'M.') の幅の合計よ
   \leftmarginvi りも大きくしてあります。
                1385 \setlength\leftmarginii {2.2em}
                1386 \setlength\leftmarginiii {1.87em}
                1387 \setlength\leftmarginiv {1.7em}
                1388 \if@twocolumn
                1389
                     \setlength\leftmarginv {.5em}
                     \setlength\leftmarginvi{.5em}
                1391 \else
                     \setlength\leftmarginv {1em}
                1393 \setlength\leftmarginvi{1em}
                1394\fi
       \labelsep \labelsep はラベルとテキストの項目の間の距離です。 \labelwidth はラベルの幅
     \labelwidth です。
                1395 \setlength \labelsep {.5em}
                1396 \setlength \labelwidth{\leftmargini}
                1397 \addtolength\labelwidth{-\labelsep}
                  これらのペナルティは、リストや段落環境の前後に挿入されます。
\@beginparpenalty
 \@endparpenalty \@itempenalty
                  このペナルティは、リスト項目の間に挿入されます。
                1398 \@beginparpenalty -\@lowpenalty
                                   -\@lowpenalty
                1399 \@endparpenalty
                                    -\@lowpenalty
                1400 \@itempenalty
                1401 (/article | report | book)
                  リスト環境の前に空行がある場合、\parskip と \topsep に \partopsep が加えら
      \partopsep
                 れた値の縦方向の空白が取られます。
                1402 \langle 10pt \rangle  \setlength\partopsep{2\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0}
                1403 \langle 11pt \rangle  \setlength\partopsep{3\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0}
                1404 \langle 12pt \rangle  \setlength\partopsep{3\p0 \@plus 2\p0 \@minus 2\p0}
         \@listi \@listi は、\leftmargin,\parsep,\topsep,\itemsep などのトップレベルの定
```

このため、\normalsize がすべてのパラメータを戻せるように、\@listI は

\@listI 義をします。この定義は、フォントサイズコマンドによって変更されます(たとえ

ば、\small の中では "小さい" リストパラメータになります)。

\@listi のコピーを保存するように定義されています。

```
1406 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
       1407 (*10pt)
            \parsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
            \topsep 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
       1409
       1411 (/10pt)
       1412 (*11pt)
            \parsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
       1413
            \topsep 9\p@
                        \@plus3\p@ \@minus5\p@
       1414
            1415
       1416 (/11pt)
       1417 (*12pt)
            parsep 5\p0 \plus 2.5\p0 \plus 2.5\p0
       1418
            \topsep 10\p0 \p0 \p0 \p0 \p0 \p0
       1419
            \itemsep5\p@ \@plus2.5\p@ \@minus\p@}
       1420
       1421 (/12pt)
       1422 \left| it \right| 0 
         ここで、パラメータを初期化しますが、厳密には必要ありません。
       1423 \@listi
        下位レベルのリスト環境のパラメータの設定です。これらは保存用のバージョンを
\@listii
\@listiii 持たないことと、フォントサイズコマンドによって変更されないことに注意をして
\@listiv ください。言い換えれば、このクラスは、本文サイズが \normalsize で現れるリス
 \@listv トの入れ子についてだけ考えています。
\@listvi 1424 \def\@listii{\leftmargin\leftmarginii
             \labelwidth\leftmarginii \advance\labelwidth-\labelsep
       1425
       1426 (*10pt)
       1427
             \topsep 4\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
       1428
             \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
       1429 (/10pt)
       1430 (*11pt)
             \topsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
       1431
             \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
       1432
       1433 \langle /11pt \rangle
       1434 (*12pt)
             1435
             \parsep 2.5\p0 \plus\p0 \plus\p0
       1436
       1437 (/12pt)
             \itemsep\parsep}
       1439 \def\@listiii{\leftmargin\leftmarginiii
             \labelwidth\leftmarginiii \advance\labelwidth-\labelsep
                 1441 (10pt)
                 \topsep 2\p0 \@plus\p0\@minus\p0
       1442 (11pt)
       1443 (12pt)
                 \topsep 2.5\p@\@plus\p@\@minus\p@
             \parsep\z@
       1444
       1445
             \partopsep \p@ \@plus\z@ \@minus\p@
```

1405 (\*10pt | 11pt | 12pt)

```
\itemsep\topsep}
1447 \def\@listiv {\leftmargin\leftmarginiv
                   \labelwidth\leftmarginiv
1448
1449
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1450 \def\@listv {\leftmargin\leftmarginv
                   \labelwidth\leftmarginv
1451
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1452
1453 \def\@listvi {\leftmargin\leftmarginvi
                   \labelwidth\leftmarginvi
1454
                   \advance\labelwidth-\labelsep}
1455
1456 (/10pt | 11pt | 12pt)
```

#### 7.4.1 enumerate 環境

enumerate 環境は、カウンタ enumi, enumii, enumiii, enumivを使います。enumNはN番目のレベルの番号を制御します。

```
\theenumi 出力する番号の書式を設定します。これらは、すでに ltlists.dtx で定義されて \theenumii います。
```

\labelenumi enumerate 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi … \labelenumiv で生 \labelenumii 成されます。

```
\p@enumii \ref コマンドによって、enumerate 環境の N 番目のリスト項目が参照されるとき
  \p@enumiii の書式です。
   \p@enumiv 1482 \renewcommand{\p@enumii}{\theenumi}
            1483 \renewcommand{\p@enumiii}{\theenumi(\theenumii)}
            1484 \renewcommand{\p@enumiv}{\p@enumiii\theenumiii}
              トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
   enumerate
             変更します。この環境は、ltlists.dtx で定義されています。
            1485 \renewenvironment{enumerate}
                 {\ifnum \@enumdepth >\thr@@\@toodeep\else
            1487
                  \advance\@enumdepth\@ne
                  \edef\@enumctr{enum\romannumeral\the\@enumdepth}%
            1488
                  \expandafter \list \csname label\@enumctr\endcsname{%
            1489
                     \IfDirectionTateT{%
            1490
                        \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
            1491
                          \else\topsep\z@\fi
            1492
            1493
                        \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
            1494
                        \labelwidth1\zw \labelsep.3\zw
            1495
                        \ifnum \@enumdepth=\@ne \leftmargin1\zw\relax
            1496
                          \else\leftmargin\leftskip\fi
            1497
                        \advance\leftmargin 1\zw
                     }%
            1498
                        \usecounter{\@enumctr}%
            1499
                        \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
            1500
                  \fi}{\endlist}
            1501
             7.4.2 itemize 環境
 \labelitemi itemize 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi … \labelenumiv で生成
\labelitemii されます。
\labelitemiii 1502 \newcommand{\labelitemi}{\labelitemfont \textbullet}
\labelitemiv 1503 \newcommand{\labelitemii}{%
                 \IfDirectionTateTF{%
            1504
            1505
                    {\labelitemfont \textcircled{~}}
                 }{%
            1506
            1507
                    {\labelitemfont \bfseries\textendash}
            1508
                 }%
            1509 }
            1510 \newcommand{\labelitemiii}{\labelitemfont \textasteriskcentered}
            1511 \newcommand{\labelitemiv}{\labelitemfont \textperiodcentered}
            1512 \newcommand\labelitemfont{\normalfont}
              トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
     itemize
             変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
```

1513 \renewenvironment{itemize}

1514 {\ifnum \@itemdepth >\thr@@\@toodeep\else

```
\advance\@itemdepth\@ne
1515
       \edef\@itemitem{labelitem\romannumeral\the\@itemdepth}%
1516
       \expandafter \list \csname \@itemitem\endcsname{%
1517
1518
          \IfDirectionTateT{%
             \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
1519
1520
               \else\topsep\z@\fi
             \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
1521
             \labelwidth1\zw \labelsep.3\zw
1522
             \ifnum \@itemdepth =\@ne \leftmargin1\zw\relax
1523
               \else\leftmargin\leftskip\fi
1524
1525
             \advance\leftmargin 1\zw
1526
1527
             \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
       \fi}{\endlist}
1528
```

#### 7.4.3 description 環境

description description 環境を定義します。縦組時には、インデントが3字分だけ深くなります。

```
1529 \newenvironment{description}
      {\list{}{\labelwidth\z@ \itemindent-\leftmargin
1530
        \IfDirectionTateT{%
1531
         \leftmargin\leftskip \advance\leftmargin3\Cwd
1532
         \rightmargin\rightskip
1533
         \labelsep=1\zw \itemsep\z@
1534
1535
         \listparindent\z@ \topskip\z@ \parskip\z@ \partopsep\z@
1536
       }%
1537
               \let\makelabel\descriptionlabel}}{\endlist}
```

\descriptionlabel ラベルの形式を変更する必要がある場合は、\descriptionlabelを再定義してください。

```
1538 \newcommand{\descriptionlabel}[1]{%
1539 \hspace\labelsep\normalfont\bfseries #1}
```

#### 7.4.4 verse 環境

verse verse 環境は、リスト環境のパラメータを使って定義されています。改行をするには \\ を用います。\\ は \@centercr に \let されています。

```
1540 \newenvironment{verse}

1541 {\let\\\@centercr

1542 \list{}{\itemsep\z@ \itemindent -1.5em%

1543 \listparindent\itemindent

1544 \rightmargin\leftmargin \advance\leftmargin 1.5em}%

1545 \item\relax}{\endlist}
```

#### 7.4.5 quotation 環境

quotation quotation 環境もまた、list 環境のパラメータを使用して定義されています。この環境の各行は、\textwidth よりも小さく設定されています。この環境における、段落の最初の行はインデントされます。

#### 7.4.6 quote 環境

quote quote 環境は、段落がインデントされないことを除き、quotation 環境と同じです。

```
1552 \newenvironment{quote}
1553 {\list{}{\rightmargin\leftmargin}%
```

1554 \item\relax}{\endlist}

#### 7.5 フロート

ltfloat.dtxでは、フロートオブジェクトを操作するためのツールしか定義していません。タイプが TYPE のフロートオブジェクトを扱うマクロを定義するには、次の変数が必要です。

**\fps@TYPE** タイプ TYPE のフロートを置くデフォルトの位置です。

**\ftype@TYPE** タイプ TYPE のフロートの番号です。各 TYPE には、一意な、2 の倍数の TYPE 番号を割り当てます。たとえば、図が番号 1 ならば、表は 2 です。次のタイプは 4 となります。

**\ext@TYPE** タイプ TYPE のフロートの目次を出力するファイルの拡張子です。たとえば、\ext@figure は 'lot' です。

\fnum@TYPE キャプション用の図番号を生成するマクロです。たとえば、\fnum@figure は '図 \thefigure' を作ります。

#### 7.5.1 figure 環境

ここでは、figure 環境を実装しています。

\c@figure 図番号です。

```
1556 (report | book) \newcounter{figure}[chapter]
                                 1557 (*tate)
                                 1558 (article) \renewcommand{\thefigure}{\rensuji{\@arabic\c@figure}}
                                 1559 (*report | book)
                                 1560 \renewcommand{\thefigure}{%
                                             \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} · \fi\rensuji{\@arabic\c@figure}}
                                 1561
                                 1562 \langle / \text{report} \mid \text{book} \rangle
                                 1563 (/tate)
                                 1564 (*yoko)
                                 1566 (*report | book)
                                 1567 \renewcommand{\thefigure}{%
                                 1568 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi\@arabic\c@figure}
                                 1569 (/report | book)
                                 1570 (/yoko)
                                    フロートオブジェクトタイプ "figure" のためのパラメータです。
\ftype@figure 1571 \def\fps@figure{tbp}
    \ext@figure 1572 \def\ftype@figure{1} \
1573 \def\ext@figure{lof}
  \verb|\finum@figure|_{1574} $$ \langle tate \rangle $$ \end{figure} $$ Is a constant of the figure o
                                 1575 (yoko) \def\fnum@figure{\figurename~\thefigure}
                 figure *形式は2段抜きのフロートとなります。
              figure* 1576 \newenvironment{figure}
                                                                                {\@float{figure}}
                                 1577
                                 1578
                                                                                 {\end@float}
                                 1579 \newenvironment{figure*}
                                                                                 {\@dblfloat{figure}}
                                 1580
                                                                                {\tt \{\end@dblfloat\}}
                                 1581
                                     7.5.2 table 環境
                                      ここでは、table 環境を実装しています。
            \c@table 表番号です。
         \thetable 1582 \langle article \rangle \setminus ewcounter\{table\}
                                 1583 (report | book) \newcounter{table} [chapter]
                                 1584 (*tate)
                                 1585 \article\\renewcommand{\thetable}{\rensuji{\Carabic\cCtable}}
                                 1586 (*report | book)
                                 1587 \renewcommand{\thetable}{%
                                               \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} · \fi\rensuji{\@arabic\c@table}}
                                 1589 (/report | book)
                                 1590 (/tate)
                                 1591 (*yoko)
```

```
1593 (*report | book)
                                                         1594 \renewcommand{\thetable}{%
                                                                               \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi\@arabic\c@table}
                                                         1596 (/report | book)
                                                        1597 (/yoko)
                                                                フロートオブジェクトタイプ "table" のためのパラメータです。
\ftype@table 1598 \def\fps@table{tbp}
        \ext@table 1599 \def\ftype@table{2}
                                                        1600 \ensuremath{\mbox{\sc lot}}\ensuremath{\mbox{\sc lot}}\ensuremath{\m
    \verb|\fnum@table|_{1601} $$ \langle tate \rangle \leq \frac{\fnum@table{\table}}{\table} $$
                                                        1602 \langle yoko \rangle \def fnum@table{\tablename~\thetable}
                                table *形式は2段抜きのフロートとなります。
                            table * 1603 \newenvironment{table}
                                                                                                                                                {\@float{table}}
                                                        1604
                                                                                                                                                {\end@float}
                                                        1605
                                                        1606 \newenvironment{table*}
                                                                                                                                                {\@dblfloat{table}}
                                                        1607
                                                         1608
                                                                                                                                                 {\end@dblfloat}
```

## 7.6 キャプション

\@makecaption \caption コマンドは、キャプションを組み立てるために \@mkcaption を呼出ます。このコマンドは二つの引数を取ります。一つは、 $\langle number \rangle$ で、フロートオブジェクトの番号です。もう一つは、 $\langle text \rangle$ でキャプション文字列です。 $\langle number \rangle$ には通常、'図 3.2'のような文字列が入っています。このマクロは、\parbox の中で呼び出されます。書体は \normalsize です。

\abovecaptionskip これらの長さはキャプションの前後に挿入されるスペースです。

キャプション内で複数の段落を作成することができるように、このマクロは \long で定義をします。

```
\vskip\abovecaptionskip
1614
     \IfDirectionTateTF{\sbox\@tempboxa{#1\hskip1\zw#2}%
1615
      {\sc }{\sc }
1616
1617
    }%
     \ifdim \wd\@tempboxa >\hsize
1618
       \IfDirectionTateTF{#1\hskip1\zw#2\relax\par
1619
        }{#1: #2\relax\par}%
1620
1621
    \else
```

1622 \global \@minipagefalse

1623 \hb@xt@\hsize{\hfil\box\@tempboxa\hfil}%

1624 \fi

1625 \vskip\belowcaptionskip}

## 7.7 コマンドパラメータの設定

#### 7.7.1 array と tabular 環境

\arraycolsep array 環境のカラムは 2\arraycolsep で分離されます。
1626 \setlength\arraycolsep{5\p0}

\tabcolsep tabular 環境のカラムは 2\tabcolsep で分離されます。
1627 \setlength\tabcolsep{6\p@}

\arrayrulewidth arrayとtabular環境内の罫線の幅です。
1628 \setlength\arrayrulewidth{.4\p0}

\doublerulesep array と tabular 環境内の罫線間を調整する空白です。
1629 \setlength\doublerulesep{2\p0}

#### 7.7.2 tabbing 環境

\tabbingsep \'コマンドで置かれるスペースを制御します。
1630 \setlength\tabbingsep{\labelsep}

#### 7.7.3 minipage 環境

\@mpfootins minipage にも脚注を付けることができます。\skip\@mpfootins は、通常の\skip\footins と同じような動作をします。

1631 \skip\@mpfootins = \skip\footins

#### 7.7.4 framebox 環境

\fboxsep \fboxsep は、\fbox と \framebox での、テキストとボックスの間に入る空白です。 \fboxrule \fboxrule は \fbox と \framebox で作成される罫線の幅です。

1632 \setlength\fboxsep{3\p0}
1633 \setlength\fboxrule{.4\p0}

#### 7.7.5 equation と eqnarray 環境

**\theequation** equation カウンタは、新しい章の開始でリセットされます。また、equation 番号に は、章番号が付きます。

このコードは \chapter 定義の後、より正確には chapter カウンタの定義の後、でなくてはいけません。

```
\label{lem:command} $$1634 \article\report | book \article\article\report | book \article\article\report | book \article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\article\ar
```

# 8 フォントコマンド

ここでは  $IAT_{EX}$  2.09 で一般的に使われていたコマンドを定義しています。これらのコマンドはテキストモードと数式モードのどちらでも動作します。これらは互換性のために提供をしますが、できるだけ \text... と \math... を使うようにしてください。

\mc これらのコマンドはフォントファミリを変更します。互換モードの同名コマンドと \gt 異なり、すべてのコマンドがデフォルトフォントにリセットしてから、対応する属 \rm 性を変更することに注意してください。

```
\label{thm:command} $$ 1640 \DeclareOldFontCommand_{\colored} $$ 1641 \DeclareOldFontCommand_{\colored} $$ 1642 \DeclareOldFontCommand_{\colored} $$ 1642 \DeclareOldFontCommand_{\colored} $$ 1643 \DeclareOldFontCommand_{\colored} $$ 1644 \DeclareOldFontCommand_{\tolored} $$ 1644
```

\bf このコマンドはボールド書体にします。ノーマル書体に変更するには、\mdseries と指定をします。

 $1645 \DeclareOldFontCommand{\bf}{\normalfont\bfseries}{\mathbf}$ 

\it これらのコマンドはフォントシェイプを切替えます。スラント体とスモールキャッ \s1 プの数式アルファベットはありませんので、数式モードでは何もしませんが、警告 \sc メッセージを出力します。 \upshape コマンドで通常のシェイプにすることができます。

```
1646 \end{\text{\normalfont}\ } $$1647 \end{\text{\normalfont}\ } $$1647 \end{\text{\normalfont}\ } $$1648 \end{\text{\normalfont}\ } $$1648
```

\cal これらのコマンドは数式モードでだけ使うことができます。数式モード以外では何 \mit もしません。現在の NFSS は、これらのコマンドが警告を生成するように定義して いますので、'手ずから' 定義する必要があります。

 $1649 \end{tabular} $$1649 \end{tabular} $$1650 \e$ 

# 9 相互参照

## 9.1 目次

\section コマンドは、.toc ファイルに、次のような行を出力します。

 $\contentsline{section}{\langle title \rangle}{\langle page \rangle}$ 

 $\langle title \rangle$  には項目が、 $\langle page \rangle$  にはページ番号が入ります。\section に見出し番号が付く場合は、 $\langle title \rangle$  は、\numberline{ $\langle num \rangle$ }{ $\langle heading \rangle$ } となります。 $\langle num \rangle$  は\thesection コマンドで生成された見出し番号です。 $\langle heading \rangle$  は見出し文字列です。この他の見出しコマンドも同様です。

figure 環境での \caption コマンドは、.lof ファイルに、次のような行を出力します。

\contentsline{figure}{\numberline{ $\langle num \rangle$ }{  $\langle caption \rangle$ }}{ $\langle page \rangle$ }

 $\langle num \rangle$  は、\thefigure コマンドで生成された図番号です。 $\langle caption \rangle$  は、キャプション文字列です。 table 環境も同様です。

\contentsline $\{\langle name \rangle\}$  コマンドは、\lockapter, \lockapter, \lockapter, \contentsline を定義します。図目次の体裁を記述するには、\lockapter, \lockapter, \contentsline などを定義します。図目次のためには \lofigure です。これらの多くのコマンドは \contentsline コマンドで定義されています。このコマンドは次のような書式となっています。

 $\verb|\dottedtocline|{\langle level\rangle}|{\langle indent\rangle}|{\langle numwidth\rangle}|{\langle title\rangle}|{\langle page\rangle}|$ 

 $\langle \textit{level} \rangle$  " $\langle \textit{level} \rangle$  <= tocdepth" のときにだけ、生成されます。\chapter はレベル 0 、\section はレベル 1 、... です。

 $\langle indent \rangle$  一番外側からの左マージンです。

 $\langle numwidth \rangle$  見出し番号(\numberline コマンドの $\langle num \rangle$ )が入るボックスの幅です。

\c@tocdepth tocdepth は、目次ページに出力をする見出しレベルです。

また、目次を生成するために次のパラメータも使います。

\@pnumwidth ページ番号の入るボックスの幅です。 1653 \newcommand{\@pnumwidth}{1.55em}

\Otocrmarg 複数行にわたる場合の右マージンです。

1654 \newcommand{\@tocrmarg}{2.55em}

\@dotsep ドットの間隔 (mu 単位) です。2 や 1.7 のように指定をします。 1655 \newcommand{\@dotsep}{4.5}

\toclineskip この長さ変数は、目次項目の間に入るスペースの長さです。デフォルトはゼロとなっています。縦組のとき、スペースを少し広げます。

1656 \newdimen\toclineskip

 $1657 \langle yoko \rangle \setminus toclineskip{ \z@}$ 

 $1658 \langle tate \rangle \setminus setlength \setminus toclineskip \{2 \setminus p@\}$ 

\numberline \numberline マクロの定義を示します。オリジナルの定義では、ボックスの幅を \@lnumwidth \@tempdima にしていますが、この変数はいろいろな箇所で使われますので、期待 した値が入らない場合があります。

フォント選択コマンドの後、あるいは \numberline マクロの中でフォントを切替えてもよいのですが、一時変数を意識したくないので、見出し番号の入るボックスを \@lnumwidth 変数を用いて組み立てるように \numberline マクロを再定義します。

1659 \newdimen\@lnumwidth

1660 \def\numberline#1{\hb@xt@\@lnumwidth{#1\hfil}}

**\@dottedtocline** 目次の各行間に\toclineskipを入れるように変更します。このマクロはltsect.dtx で定義されています。

1661 \def\@dottedtocline#1#2#3#4#5{%

1662 \ifnum #1>\c@tocdepth \else

1663 \vskip\toclineskip \@plus.2\p@

1664 {\leftskip #2\relax \rightskip \@tocrmarg \parfillskip -\rightskip

1665 \parindent #2\relax\@afterindenttrue

1666 \interlinepenalty\@M

1667 \leavevmode

1668 \@lnumwidth #3\relax

1669 \advance\leftskip \@lnumwidth \null\nobreak\hskip -\leftskip

1670 {#4}\nobreak

1672 \hfill\nobreak

1673 \hb@xt@\@pnumwidth{\hss\normalfont \normalcolor #5}%

1674 \par}%

1675 \fi}

\addcontentsline 縦組の場合にページ番号を \rensuji で囲むように変更します。

```
このマクロは ltsect.dtx で定義されています。
                                      1676 \providecommand*\protected@file@percent{}
                                      1677 \def\addcontentsline#1#2#3{%
                                                   \protected@write\@auxout
                                                        {\tt \{\label\@gobble\ \let\@gobble\ \let\glossary\@gobble\ \glossary\@gobble\ \glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\glossary\
                                      1679
                                                                      \@temptokena{\rensuji{\thepage}}%
                                      1680 (tate)
                                      1681 (yoko)
                                                                      \@temptokena{\thepage}%
                                                        }{\string\@writefile{#1}%
                                      1682
                                      1683
                                                                1684
                                                                  \protected@file@percent}}%
                                      1685 }
                                          9.1.1 本文目次
                                           目次を生成します。
\tableofcontents
                                      1686 \newcommand{\tableofcontents}{%
                                      1687 (*report | book)
                                                    \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                                      1688
                                                    \else\@restonecolfalse\fi
                                      1689
                                      1690 (/report | book)
                                      1691 (article) \section*{\contentsname
                                      1692 (!article) \chapter*{\contentsname
                                          \tableofcontents では、\@mkboth は heading の中に入れてあります。ほかの命
                                          令 (\listoffigures など) については、\@mkboth は heading の外に出してありま
                                          す。これは LATEX の classes.dtx に合わせています。
                                                        \@mkboth{\contentsname}{\contentsname}%
                                                 }\@starttoc{toc}%
                                      1695 (report | book) \if@restonecol\twocolumn\fi
                                      1696 }
                     \1@part part レベルの目次です。
                                      1697 \newcommand*{\l@part}[2]{%
                                                  \ifnum \c@tocdepth >-2\relax
                                      1699 (article)
                                                                        \addpenalty{\@secpenalty}%
                                      1700 (!article)
                                                                         \addpenalty{-\@highpenalty}%
                                      1701
                                                        \addvspace{2.25em \@plus\p@}%
                                      1702
                                                         \begingroup
                                                         \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth
                                      1703
                                      1704
                                                         \parfillskip-\@pnumwidth
                                                        {\leavevmode\large\bfseries
                                      1705
                                                           \setlength\@lnumwidth{4\zw}%
                                      1706
                                      1707
                                                           #1\hfil\nobreak
                                      1708
                                                           \hb@xt@\@pnumwidth{\hss#2}}\par
                                      1709
                                                         \nobreak
                                      1710 (article)
                                                                        \if@compatibility
                                                        \global\@nobreaktrue
                                      1711
```

\everypar{\global\@nobreakfalse\everypar{}}%

1712

```
1713 (article)
                                \fi
                          \endgroup
                 1715
                       \fi}
      \1@chapter chapter レベルの目次です。
                 1716 (*report | book)
                 1717 \newcommand*{\l@chapter}[2]{%
                       \ifnum \c@tocdepth >\m@ne
                 1718
                          \addpenalty{-\@highpenalty}%
                 1719
                          \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                 1720
                 1721
                         \begingroup
                 1722
                            \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth\parfillskip-\rightskip
                 1723
                            \leavevmode\bfseries
                 1724
                            \setlength\@lnumwidth{4\zw}%
                            \advance\leftskip\@lnumwidth \hskip-\leftskip
                 1725
                 1726
                            #1\nobreak\hfil\nobreak\hb@xt@\pnumwidth{\hss#2}\par
                 1727
                            \penalty\@highpenalty
                         \endgroup
                 1728
                       \{fi\}
                 1729
                 1730 (/report | book)
      \losection section レベルの目次です。
                 1731 (*article)
                 1732 \newcommand*{\l@section}[2]{%
                       1733
                          \addpenalty{\@secpenalty}%
                 1734
                          \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                 1735
                 1736
                          \begingroup
                            \parindent\z@ \rightskip\@pnumwidth \parfillskip-\rightskip
                 1737
                            \leavevmode\bfseries
                 1738
                            \setlength\@lnumwidth{1.5em}%
                 1739
                            \verb|\advance| leftskip| @lnumwidth \ \verb|\hskip-| leftskip| |
                 1740
                            #1\nobreak\hfil\nobreak\hb@xt@\pnumwidth{\hss#2}\par
                 1741
                 1742
                         \endgroup
                 1743
                       \{fi\}
                 1744 (/article)
                 1745 (*report | book)
                 1747 \langle yoko \rangle \mbox{\newcommand*{\l@section}{\cline{1}{1.5em}{2.3em}}}
                 1748 (/report | book)
   \l@subsection 下位レベルの目次項目の体裁です。
\l@subsubsection 1749 \langle *tate \rangle
    1750 \langle *article \rangle
                 1751 \newcommand*{\l@subsection}
                                                     {\dot{cline}{2}{1\zw}{4\zw}}
 \verb|\losubparagraph||_{1752} \verb|\newcommand*{\losubsubsection}{\losubsubsection}{\losubsubsection}{\losubsubsection}{\losubsubsection}|_{1752} \\
                 1753 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                     {\dot{cline}{4}{3\zw}{8\zw}}
                 1754 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{4\zw}{9\zw}}
```

```
1756 (*report | book)
                                    1757 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                        {\dottedtocline{2}{2}zw}{6}zw}
                                    1758 \newcommand*{\l@subsubsection}{\@dottedtocline{3}{3\zw}{8\zw}}
                                                                                                                        {\dot{cline}{4}{4\zw}{9\zw}}
                                    1759 \newcommand*{\l@paragraph}
                                    1760 \newcommand*{\l0subparagraph} {\0dottedtocline{5}{5}\zw}{10}\zw}}
                                    1761 (/report | book)
                                    1762 (/tate)
                                    1763 (*yoko)
                                    1764 (*article)
                                    1765 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                        {\dot{cline}{2}{1.5em}{2.3em}}
                                    1766 \newcommand*{\l@subsubsection}{\@dottedtocline{3}{3.8em}{3.2em}}
                                    1767 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                        {\colored{0.0em}{4.1em}}
                                    1768 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{10em}{5em}}
                                    1769 (/article)
                                   1770 (*report | book)
                                   1771 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                        {\color=0.2}{3.8em}{3.2em}
                                   1772 \end{area} $$1772 \rightarrow {\end{area} \{10subsubsection} {\end{area} \{1.1em\}} $$
                                   1773 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                        {\@dottedtocline{4}{10em}{5em}}
                                   1774 \enskip {\tt \enskip} {\tt 
                                   1775 (/report | book)
                                    1776 (/yoko)
                                        9.1.2 図目次と表目次
\listoffigures 図の一覧を作成します。
                                   1777 \newcommand{\listoffigures}{%
                                    1778 (*report | book)
                                    1779
                                                  \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                                    1780
                                                   \else\@restonecolfalse\fi
                                                   \chapter*{\listfigurename}%
                                   1781
                                    1782 \langle / \text{report} \mid \text{book} \rangle
                                                                       \section*{\listfigurename}%
                                   1783 (article)
                                                 \@mkboth{\listfigurename}{\listfigurename}%
                                                 \@starttoc{lof}%
                                   1786 (report | book) \if@restonecol\twocolumn\fi
                                   1787 }
            \l@figure 図目次の体裁です。
                                   1788 \langle tate \rangle \newcommand*{\l@figure}{\l@dottedtocline{1}{1}zw}{4}zw}
                                    1789 \langle yoko \rangle \newcommand*{\l@figure}{\cdottedtocline{1}{1.5em}{2.3em}}
  \listoftables 表の一覧を作成します。
                                    1790 \newcommand{\listoftables}{%
                                    1791 (*report | book)
                                                   \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                                    1792
                                                   \else\@restonecolfalse\fi
                                    1793
                                                  \chapter*{\listtablename}%
```

1755 (/article)

```
1795 ⟨/report | book⟩
1796 ⟨article⟩ \section*{\listtablename}%
1797 \@mkboth{\listtablename}{\listtablename}%
1798 \@starttoc{lot}%
1799 ⟨report | book⟩ \if@restonecol\twocolumn\fi
1800 }
\l@table 表目次の体裁は、図目次と同じにします。
1801 \let\l@table\l@figure
```

# 9.2 参考文献

\bibindent オープンスタイルの参考文献で使うインデント幅です。

1802 \newdimen\bibindent

1803 \setlength\bibindent{1.5em}

\newblock \newblockのデフォルト定義は、小さなスペースを生成します。
1804 \newcommand{\newblock}{\hskip .11em\@plus.33em\@minus.07em}

thebibliography 参考文献や関連図書のリストを作成します。

```
1805 \newenvironment{thebibliography}[1]
1806 \article\{\section*{\refname}\@mkboth{\refname}\%
1807 (report | book) {\chapter*{\bibname}\@mkboth{\bibname}{\bibname}%
       \list{\@biblabel{\@arabic\c@enumiv}}%
1808
            {\settowidth\labelwidth{\@biblabel{#1}}%
1809
1810
             \leftmargin\labelwidth
1811
             \advance\leftmargin\labelsep
1812
             \@openbib@code
1813
             \usecounter{enumiv}%
1814
             \let\p@enumiv\@empty
             \renewcommand\theenumiv{\@arabic\c@enumiv}}%
1815
       \sloppy
1816
       \clubpenalty4000
1817
       \@clubpenalty\clubpenalty
1818
       \widowpenalty4000%
1819
       \sfcode`\.\@m}
1820
1821
      {\def\@noitemerr
        {\@latex@warning{Empty `thebibliography' environment}}%
1822
1823
```

\@openbib@code \@openbib@code のデフォルト定義は何もしません。この定義は、openbib オプションによって変更されます。

1824 \let\@openbib@code\@empty

\@biblabel The label for a \bibitem[...] command is produced by this macro. The default from latex.dtx is used.

1825 % \renewcommand\*{\@biblabel}[1]{[#1]\hfill}

\@cite The output of the \cite command is produced by this macro. The default from ltbibl.dtx is used.

1826 % \renewcommand\*{\@cite}[1]{[#1]}

#### 9.3索引

2段組の索引を作成します。索引の先頭のページのスタイルは jpl@in とします。し theindex たがって、headingsと bothstyleに適した位置に出力されます。

1827 \newenvironment{theindex}

{\if@twocolumn\@restonecolfalse\else\@restonecoltrue\fi 1828

\twocolumn[\section\*{\indexname}]% 1829 (article)

1830 (report | book) \twocolumn[\@makeschapterhead{\indexname}]%

\@mkboth{\indexname}{\indexname}%

\thispagestyle{jpl@in}\parindent\z@ 1832

パラメータ \columnseprule と \columnsep の変更は、\twocolumn が実行された 後でなければなりません。そうしないと、索引の前のページにも影響してしまうた めです。

\parskip\z@ \@plus .3\p@\relax

1834 \columnseprule\z@ \columnsep 35\p@

1835 \let\item\@idxitem}

{\if@restonecol\onecolumn\else\clearpage\fi} 1836

索引項目の字下げ幅です。\@idxitem は \item の項目の字下げ幅です。

 $\verb|\subitem 1837 \land (0idxitem){\par\hangindent 40\p0}| \\$ 

\subsubitem \lambda \newcommand{\subitem}{\@idxitem \hspace\*{20\p@}}

1839 \newcommand{\subsubitem}{\@idxitem \hspace\*{30\p@}}

\indexspace 索引の"文字"見出しの前に入るスペースです。

#### 脚注 9.4

本文と脚注の間に引かれる罫線です。

1841 \renewcommand{\footnoterule}{%

 $\mbox{kern-3}p0$ 1842

1843 \hrule\@width.4\columnwidth

 $\mbox{kern2.6}p0$ 1844

\c@footnote report と book クラスでは、chapter レベルでリセットされます。

1845 (!article) \@addtoreset{footnote}{chapter}

このマクロにしたがって脚注が組まれます。 \@makefntext

\@makefnmark は脚注記号を組み立てるマクロです。

```
1846 \ \langle *tate \rangle \\ 1847 \ \end{Command \end{Command} } 1848 \ \end{Command \end{Command} } 1849 \ \langle tate \rangle \\ 1850 \ \langle *yoko \rangle \\ 1851 \ \end{Command \end{Command} } 1849 \ \langle tate \rangle \\ 1852 \ \end{Command \end{Command} } 1849 \ \langle tate \rangle \\ 1853 \ \end{Command} \\ 1854 \ \end{Command} \\ 1855 \ \end{Command} \\ 1856 \ \end{Command} \\ 1857 \ \end{Command} \\ 1858 \ \end{Command} \\ 1858 \ \end{Command} \\ 1859 \ \end{Command} \\ 1859 \ \end{Command} \\ 1850 \ \end{Co
```

# 10 今日の日付

組版時における現在の日付を出力します。

\if 西暦 \today コマンドの '年' を、西暦か和暦のどちらで出力するかを指定するコマンド \西暦 です。2018 年 7 月以降の日本語  $T_{\rm E}$ X 開発コミュニティ版 (v1.8) では、デフォルト \和暦 を和暦ではなく西暦に設定しています。

```
1854 \newif\if 西曆 \西曆 true
1855 \def\西暦{\西暦 true}
1856 \def\和暦{\西暦 false}
```

\heisei \today コマンドを \rightmark で指定したとき、\rightmark を出力する部分で和 暦のための計算ができないので、クラスファイルを読み込む時点で計算しておきます。

1857 \newcount\heisei \heisei\year \advance\heisei-1988\relax

\today 縦組の場合は、漢数字で出力します pIFTEX 2018-12-01 以前では縦数式ディレク \pltx@today@year ション時でも漢数字で出力していましたが、pIFTEX 2019-04-06 以降からはそうしなくなりました。

```
1858 \def\pltx@today@year@#1{%
                               \ifnum\numexpr\year-#1=1 元\else
1859
1860
                                           \ifnum1=\IfDirectionTateTF{1}{0}%
1861
                                                        \kansuji{\year-#1}%
                                            \else
1862
1863
                                                       \number\numexpr\year-#1\relax\nobreak
1864
                                           \fi
                               \fi 年
1865
1866 }
1867 \ensuremath{\mbox{\sc loss}} 1867
                                1868
                                           昭和\pltx@today@year@{1925}%
1869
                                \end{align*} $$ \operatorname{lifnum}\operatorname{numexpr}\operatorname{10000+\mathbb{100}+\lambda ay<20190501} $$
1870
                                             平成\pltx@today@year@{1988}%
1871
1872
                                             令和\pltx@today@year@{2018}%
1873
1874
                            \fi\fi}
```

```
1875 \def\today{{%}
      \if 西暦
        \ifnum1=\IfDirectionTateTF{1}{0}\kansuji{\year}%
1877
        \else\number\year\nobreak\fi 年
1878
1879
      \else
        \pltx@today@year
1880
      \fi
1881
      \ifnum1=\IfDirectionTateTF{1}{0}%
1882
        \kansuji{\month}月
1883
        \kansuji{\day}∃
1884
1885
        \number\month\nobreak 月
1886
1887
        \number\day\nobreak ∃
1888
      fi}
```

# 11 初期設定

```
\prepartname
   \postpartname 1889 \newcommand{\prepartname}{第}
 \prechaptername 1890 \newcommand{\postpartname}{部}
                 1891 (report | book) \newcommand{\prechaptername}{第}
\postchaptername 1892 \report | book \newcommand{\postchaptername}{章}
   \contentsname
 \listfigurename 1893 \newcommand{\contentsname}{目 次}
 \listtablename 1894 \newcommand{\listfigurename}{図 目 次}
                 1895 \newcommand{\listtablename}{表 目 次}
        \refname
        \bibname 1896 \article \newcommand \refname } {参考文献}
      \indexname 1897 \(\rangle\report \| \book \\newcommand{\bibname}{関連図書}
                 1898 \newcommand{\indexname}{索 引}
     \figurename
      \tablename 1899 \newcommand{\figurename}{図}
                 1900 \newcommand{\tablename}{表}
   \appendixname
   \abstractname 1901 \newcommand{\appendixname}{付 録}
                 1902 ⟨article | report⟩ \newcommand{\abstractname}{概 要}
                 1903 (book)\pagestyle{headings}
                 1904 (!book)\pagestyle{plain}
                 1905 \pagenumbering{arabic}
                 1906 \raggedbottom
                 1907 \if@twocolumn
```

```
1908 \twocolumn
1909 \sloppy
1910 \else
1911 \onecolumn
1912 \fi
```

\@mparswitch は傍注を左右(縦組では上下)どちらのマージンに出力するかの指定です。偽の場合、傍注は一方の側にしか出力されません。このスイッチを真とすると、とくに縦組の場合、奇数ページでは本文の上に、偶数ページでは本文の下に傍注が出力されますので、おかしなことになります。

また、縦組のときには、傍注を本文の下に出すようにしています。\reversemarginparとすると本文の上側に出力されます。ただし、二段組の場合は、つねに隣接するテキスト側のマージンに出力されます。

```
1913 (*tate)
1914 \normalmarginpar
1915 \@mparswitchfalse
1916 (/tate)
1917 (*yoko)
1918 \if@twoside
1919 \@mparswitchtrue
1920 \else
1921 \@mparswitchfalse
1922 \fi
1923 (/yoko)
1924 (/article | report | book)
```